

INDEX

ことば徒然
言語性を伸ばす指導

ことば徒然

家でも一つですが片付けるようになったころ、教室でも最後に遊んだおもちゃは片付けるように指導しました。

これにも、抵抗がありました。

「遊びたいのに」と言います。

「これしたら遊んでもいい」と聞いてきます。

「もう幼稚園に行く時間だから」

「ことばの教室の勉強は終わり」と言っても聞きません。

泣いて片付けようとしません。

「じゃこれを片付けたら、一つだけ遊んでいもいい」

「それが終わったら幼稚園に行くよ」と指示しました。

このとき子どもの行動を止めて、次の行動にうつるには予告することが大切だと思いました。

言語性を伸ばす指導

じてんしゃは のりものです。

りんごは くだものです。

いぬは どうぶつです。

一つのをななかまわけのことばで説明しています。

えんぴつは かくものです。

おなべは りょうりに つかいます。

かさは あめにぬれないように つかいます。

一つのをつかい方で説明しています。

ぞうの みみは おおきい。

ぞうの はなは ながい。

キリンの くびは ながい。

かばの あしは みじかい。

漂泊鳥から

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

=====
ことばだより No.114

ことばのもり 2005.2.24
=====

INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

その子の指導時間には、校舎の入り口で待つようにしました。
教室に走りこんでくるのをとめようと思ったからです。

その子が来ました。

廊下を走ってきました。

「おはよう」と声をかけましたが、すり抜けていきました。

かばんも帽子も放り投げてあります。

まずは、教室の入り口につれていき、「くつをそろえて」と指示しました。

手を払いのけようとしますが、しゃがませて靴をそろえさせました。

教室にはいり、「かばんと帽子を大きい机の上において」と指示しました。

いっしょに拾い、机の上におきました。

「くつをそろえて」「かばんと帽子は大きい机の上において」と指示することを続けました。

つぎの指導日は、指示することばを減らし、「どうするんだった」と問いかけのことばを増やし、いっしょにするようにしました。

そして次の指導日には、いっしょにすることも減らし、問いかけだけにしていきました。

言語性を伸ばす指導

動物カードを使い、比較語の指導をします。

きりんは くびが ながい。

ぞうは みみが おおきい。

ぞうは あしが ふとい。

かばは あしが みじかい。

くんは みみが ちいさい。

しかは あしが ほそい。

子どもは「ちょっと、ちいさい」とか「ながく ない」と返答する子がいます。
そのとき「ながい」「みじかい」、「おおきい」「ちいさい」、「ふとい」「ほそい」を対に
して並べて読みます。
片方をかくして答えさせたり、文を作りながら比較語の指導をしていきます。

___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ /
漂泊鳥から

ことばのもり 管理人 漂泊鳥
___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ /

=====
ことばだより No.113

ことばのもり 2005.2.17
=====

INDEX

ことば徒然
言語性を伸ばす指導

ことば徒然

指導をしていると、できないことばかりに目がいってしまいます。

しかし、お母さんの話から

- ・ひらがなが読めること、
- ・読み始めると集中すること

がわかりました。

一度にすべてに取り組むのは無理です。

できていないことの中で、

- ・できそうなことから取り組む
- ・もうすぐ必要になることに取り組む

ことにしました。

言語性を伸ばす指導

「こぶた」「たぬき」「きつね」「ねこ」というのはしりとりです。

生き物でつないでいます。

「あし」「しお」「おかし」「した」「たのしい」「いし」「しか」「かなしい」「いしなげ」
「けしごむ」「むし」「しあわせ」「せみしぐれ」「れきし」

結構つながります。

これもしりとりです。
どのことばにも「し」があります。

「し」の発音練習にいいかも・・・？

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

漂泊鳥から

寒い日が続きます。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

=====
ことばだより No.112

ことばのもり 2005.2.10

=====
INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

終わる時間になると、「もう一つ」「もう一つ」と言ってなかなか帰ろうとしません。

この子どもが帰った後は、片付けるのが大変でした。

ことばの教室の様子から、コミュニケーションの問題、注意集中の問題、

生活習慣の問題、多動性の問題を持っているように思いました。

お母さんは、

「家でも同じで、おもちゃは出しっぱなしで、この子の後をついてわたしが片付けている。」

「よく話をするがすぐに話をはぐらかしてしまう。」

「静かなときは本を読んでいるときだけです。」

「もうすぐ小学校に入学するのに、字を書かせると嫌がります。」

と家での様子を話してくれました。

言語性を伸ばす指導

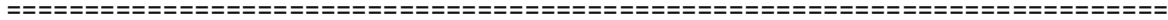
＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

漂泊鳥から

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

=====



INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

教室に走りこんでくる子がいました。
 幼稚園のかばんや帽子を放り出して、戸棚からおもちゃを出します。
 そばに行って「おはよう」と声をかけると、新しいおもちゃを出します。
 「いっしょに遊ぼう」と声をかけると、次のおもちゃをとりに行きます。
 遊んでいるおもちゃに手を出すと「やめて」と言い、次のおもちゃを取りに・・・。
 出したおもちゃを「かたづけよう」と声をかけると、プレイルームに行って運動する子でした。
 一つのこと集中できる時間が短く、すぐに飽きてしまいます。
 関わろうと話しかけると、問いには答えませんが、自分の話に変えてしまいます。
 指示すると、「今これをしているから」「もっとこれをしたい」と答えます。
 しばらく待っていると、ちがうことをはじめます。
 さっき指示したことをさせようとする、「前からこれをしたかった」と返事をします。

言語性を伸ばす指導

1年生の前の教科書には載っていた「おむすび ころりん」を読むようにしています。
 初めての子にも、リズムがあって読みやすいようです。
 読み通した後で、教科書を閉じます。
 お話を絵カードにしたのを子どもの前に並べて、
 「順番に並べていこう」と話します。
 「山の畑を耕して、・・・」と話しながら、絵カードを選んで一番のところにおいていきます。
 同じ調子で、並び替えてみるのもいいです。
 または、は子どもに任せてみるのもいいです。

_ /
 漂泊鳥から
 風がだんだん強く冷たくなってきました。
 ことばのもり 管理人 漂泊鳥
 _ /





INDEX

ことば徒然
言語性を伸ばす指導

ことば徒然

自分を表現する道具は話しことばだけではありません。
書きことばもあります。
身振り手振りの動作で表現することもあります。
顔の表情や視線で表現することもあります。
絵や歌で表現することもあります。
いろんな表現手段をつかい、自分を表現しています。

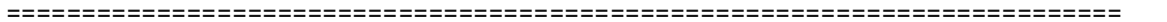
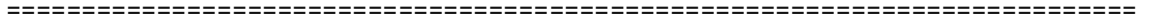
言語性を伸ばす指導

かたい かき
たかい かき

「カ」の子音は、舌の奥の部分を口蓋舌筋と茎突舌筋で挙上させ、鼻咽腔を閉鎖し、呼気を開放し発音します。
「タ」の子音は、舌尖を上縦舌筋と茎突舌筋で挙上させ、鼻咽腔を閉鎖し、呼気を開放し発音します。
「カ」音と「タ」音は、外舌筋の口蓋舌筋と内舌筋の上縦舌筋の違いで、舌の挙上させる部分が変わってきます。
だから、「カ」行と「タ」行は誤まりやすいのかもしれない。

舌の運動が未熟で「かたい かき」というのが「かかい かき」となるのかもしれない。
また「たかい かき」というのが「たたい かき」となるのかもしれない。

___ /
漂泊鳥から
寒い日が続いています。
ことばのもり 管理人 漂泊鳥
___ / ___ /



INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

ことばの教室で指導していた子どもの親御さんが弟を連れてやってこられました。
 しばらく話しをして、お母さんが席をたたれました。
 そのあと電話が鳴っているのに気づき、
 「ちょっと、待ってて」
 と言ってその部屋を出ました。
 電話が長びき、もどろうとすると、泣き声が聞こえてきます。
 「どうしたん」と聞くと
 「一人になったと思った」と答えました。
 これも、子どもがいっしょにいてくれる大人との間に安心感を育てているという例です。

言語性を伸ばす指導

「こぶた」「たぬき」「きつね」「ねこ」というのはしりとりです。
 生き物でつないでいます。
 「あし」「しお」「おかし」「した」「たのしい」「いし」「しか」「かなしい」「いしなげ」「け
 しごむ」「むし」「しあわせ」「せみしぐれ」「れきし」
 結構つながります。
 これもしりとりです。
 どのことばにも「し」があります。

「し」の発音練習にいいかも・・・？

_ /
 漂泊鳥から
 今年は朝から雨が降りました。
 10年目の1.17の日。
 ことばのもり 管理人 漂泊鳥
 _ /

ことばだより No.108

ことばのもり 2005.1.12

ことば徒然
言語性を伸ばす指導

ことば徒然

電車の中で、お母さんに抱っこされた赤ちゃんを見ました。
お母さんがいすに座って抱いていた赤ちゃんも横におろしました。
その赤ちゃんはよく動き、いすに顔をうずめたような形になりました。
お母さんはすこしあわてて、起こしました。
赤ちゃんは笑顔で答えていました。
いつもそばにいてくれる人といっしょだから安心しているんでしょう。

言語性を伸ばす指導

単純な練習ばかりしていると、飽きられてしまう。
だからと言って難しすぎると、嫌がられてしまう。
教材をさがすのは、大変です。
大変だといいいながら、楽しんでるんですが・・・。
今日、ことば遊びのページを見ていて、おもしろいのがありました。
発音練習にも使えそうです。
おもしろいので紹介します。

2才からあそぼ！めいろの森

<http://www.din.or.jp/~fuwa/meiro/main.htm>

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

漂泊鳥から

冬ですね。

今年もまたしもやけができました。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

=====
ことばだより No.107

ことばのもり 2005.1.5

=====
INDEX
ことば徒然
言語性を伸ばす指導

あけまして おめでとうございます。

本年もよろしく願いいたします。
こ ことは
と とりどし(自分の干支です)。
ば ばたばたとせず、
の のんびりやろうと思います。
も もうちょっと
り りこうになろうと思います。

ことば徒然

「遠くの大きな氷のうえを狼十ずつ大勢通った」
「いきなり何のこと」と思われる方もおられるかもしれません。
読み仮名をふってみてください。
「とうくのおうきなこうりのうえをおうかみとうずつおうぜいとうった」
では誤りです。
お列長音の例外で
「とおくのおおきなこおりのうえをおおかみとおずつおおぜいとおった」
で正解です。

言語性を伸ばす指導

双六に「ふりだし」「あがり」ということばがあります。
「はじめ」と「おわり」
「スタート」と「ゴール」と同じような意味です。
学習のはじめに、オセロの白と黒のこまを一方の色にそろえて並べさせます。
「双六が出来上がり」
と言って、ふりだしにあるオセロのこまをひとつ裏返します。
一つ終わるごとに裏返していきます。
「あがり」までくれば、勉強が終わりです。

— / — /

漂泊鳥から

去年一年を漢字にあらわすと「災」だそうです。

台風や地震の被害が多かい一年でした。

今年一年は「福」の多い一年となりますように・・・。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

— / — /

=====
ことばだより No.106

ことばのもり 2004.12.29

=====

ことば徒然
言語性を伸ばす指導

ことば徒然

2004 年もあと三日。
2004 年のことばだよりもここでおしまいです。
内容はさておき、ここまで続けた自分を誉めてあげようと思います。

子どものセルフエスティームを大切に、「よかったね」「がんばったね」と声をかけて 1 年を終わってあげてください。

「親と医師、教師が語る ADHD の子育て・医療・教育」から
セルフエスティームとは
Self (自己・自分) - esteem (考える・評価する・尊重する)
「性格・弱点・障害・特技・外見など、自分のすべての要素をもとにつくられる自己イメージに対して、自分の価値を評価し、自己を大切にしようと思う気持ち」と述べています。

言語性を伸ばす指導

こくご 1 年の下の教材になぞなぞをつくろうがあります。
そこに出てくるのをまねして、子どもに問います。
「てんきのいい日は、いっしょにおでかけ。
雨の日は、いえでおるすばん。
かぜがふくと、とんでいかないように、あたまをおさえます。
これなあに。」
「おそうじ大すぎ。
ふけばふくほど、くろくなるものなあに。」
と

___ /
漂泊鳥から
皆様も
いい年をお迎えください。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥
___ / ___ /

=====
ことばだより No.105

ことばのもり 2004.12.22
=====

INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことばだよりを発行して、いよいよ3年目に入ります。
これからもよろしく願いいたします。

ことば徒然

スーパーに買い物にきている親子を見ました。
お母さんは、かごをさげて買い物をしています。
お父さんは子どもに
「ぶどう、どれ？」
「みかん、どれ？」
とたずねています。
子どもは問われた物の前まで行って、お父さんの顔を見えています。
このあと、お父さんと子どもは笑顔でやり取りしていました。

お父さんと子どもの中で、かわされた視線や笑顔にはこんな意味があるのでしょうか。
「前、お母さんと食べたとき、言ってたなあ。ぶどうって、これだったかな。」
「ピンポーン、正解」
「よかった。甘くって種があるんだよね。つぎは何？」

言語性を伸ばす指導

1年のこくごの教科書に
「きょうは、なん月 なん日 なんよう日です。」
というところがあります。
日付の読み方は学習していますが、ここでもう一度、
「ついたち」「ふつか」「みっか」の読み方を復習します。
「じゃあ、明日は何月何日何曜日ですか」
「じゃあ、昨日は何月何日何曜日ですか」
と質問してみます。
カレンダーを見ている子はできますね。
一週間がわかっている子はできますね。
「あさって」「おとつい」になればできるでしょうか。

＿ / 　 /

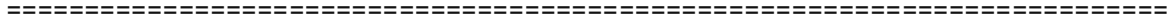
漂泊鳥から

やっと暖房器具を使い始めました。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

＿ / 　 /

=====



INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

風邪のため、お休みします。

そのかわり言語性を伸ばす指導に二つ記事を書きました。

言語性を伸ばす指導

その1

カードの「ふゆやすみ」を読みます。

「クリスマスツリー」「サンタクロース」「かがみもち」「おとしだま」「はつもうで」「たこあげ」「こままわし」「はねつき」「かきぞめ」などの絵カードをならべます。

それぞれの名前を教えます。

「カード」に名前を書いて名前カードをつくります。

絵カードと名前カードを対応させます。

たとえば

絵カードと名前カードの頭の文字だけ見せて、続く文字を言わせます。

名前カードを読んで、絵カードを探させます。

または絵カードを見せて、名前カードを探させます。

上に絵カードを並べ、下に名前を書いたカードを並べて、対応するものを線で結びます。

その2

からす、きつね、くま、さる、かば、きりん、パンダ、にわたりの絵カードを並べます。

そして「かきくけこ」をさがします。

「か」の横にからす、かば

「き」の横にきりん、きつね

「く」の横にくま、きりんの絵カードをおきます。

「きりんの くびは ながい。」「きりんの ながい くび」「くびの ながい きりん」をリピートさせて「く」のあることに気づかせます。

「け」の横にわたりの絵カードをおきます。

「にわとりは こけこっーこーと なきます。」リピートさせ、「け」のあること

に気づかせます。

「こ」の横にさる、パンダ

「おやこの さる」「さるの おやこ」「こどもの パンダ」とリピートさせ、「こ」のあることに気づかせます。

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

漂泊鳥から

風邪を引いてしまいました。

この時期につらい。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

=====
ことばだより No.103

ことばのもり 2004.12.8

=====
INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

こだわりのある子どもに、一つのことをさせようと大人がこだわってはいけない。

大人が願う一つのこととは当たり前なことなんでしょう。

常識的なことなんでしょう。

価値としても高いものなんでしょう。

どの人が聞いても「そうですね」とうなづけるものなんでしょう。

視点を変えることができる子には、有効なことなんでしょう。

視点を変えることができない子には、無効というより、こだわりを強めることになります。

柔軟に対応できないから、大人がその子にあわせて対応することが求められます。

言語性を伸ばす指導

動物の絵カードを見てネーミングします。

「いぬ」「さる」「かば」「ぞう」「にわとり」「しまうま」「ライオン」「はと」「パンダ」等を9枚程度を机に並べていきます。

この中から「あいうえお」のつくのをさがしてと指示します。

子どもも「い」と「う」はさがします。

「ワンワン」「キーキー」「コケッコッコ」「ガオー」と言って今のは何かと聞きます。

わからなくても「鳴き声」「動物の鳴き声」と教えてあげてください。

犬の鳴き声は「ワンワン」さるの鳴き声は「キーキー」・・・

と子どもに言ってもらいます。

「え」がつくのに気づけば、「あ」も「お」もわかると思います。

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

漂泊鳥から

雨が降り続き、風が強い日です。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

=====
ことばだより No.102

ことばのもり 2004.12.1

=====
INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

12月、師走の月です。

師が走る月。

師が走るくらい忙しい月。

いつも落ち着いていた師が、仕事をするのに走り出すくらい忙しい月。

いままで暇そうにしていた師が、やり残した仕事を片付けるために、走り出すくらい忙しい月。

1年のしめくくりです。

とにかく、家でも行事の多い月です。

休みの日に子どもといっしょに家の掃除をするのもいいと思います。

言語性を伸ばす指導

1枚のカードに1から9までの数字とシールを1枚ずつ貼ります。

そのカードを使ってこんなことをしています。

「りんごが1こあります。1こもらいました。みんなでなんこですか。」

と問います。

そして数字の1を指差し、「いち」と読み、シールを指差して「に」と読みます。

みんなで「2(に)こ」と話します。

「りんごが2こあります。1こもらいました。みんなでなんこですか。」

と問います。

そして、数字の2を指差し、「に」と読み、シールを指差して「さん」と読みます。

みんなで「3(さん)こ」と話します。

___/___/___/___/___/___/___/___/___/___/___/___/___/___/___/___/___/___/

漂泊鳥から

今日から師走。

時間の過ぎるのが早く感じます。

歳のせいかな・・・。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

___/___/___/___/___/___/___/___/___/___/___/___/___/___/___/___/___/___/

=====
ことばだより No.101

ことばのもり 2004.11.24

=====
INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

お母さんが、子どもと手をつないで園に行かれます。

子どもは少しずつ遅れだします。

手を引っ張られていくようです。

お母さんの歩幅と子どもの歩幅が違うからです。

お母さんは子どもを園に届けた後、何か用事があるのかもしれない。

朝からお母さんと子どもの間に何かあったのかもしれない。

大人が歩幅を子どもにあわせること、

視線を子どもに合わせることも必要です。

また、子どもが歩幅を大人にあわそうとすること、

飛び上がり、視線を高くすることも大切です。

言語性を伸ばす指導

りんごのシールを1から9枚はったカードと1から10までの数詞を用意します。

「りんごが1こあります。」

「りんごが2こあります。」

とって2枚のりんごカードを出します。

「みんなでなんこですか。」

と話し、2枚のカードのりんごを指差して数えます。

「いち、に、さん」

と数えて、数詞の「3」を子どもに選ばせます。

これをくりかえして、「みんなで」と言うことばのときは、つづけて数唱すればいいことを教えます。

___ /
漂泊鳥から
寒さを感じるようになりました。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥
___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ /

=====
ことばだより No.100

ことばのもり 2004.11.17

=====
「書くことがあるかな」と思いながら、
ここまで続けることができたのは、
読んでいただいている皆さんのおかげです。
これまで、ありがとうございました。
これからもよろしく願いいたします。

INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

野球のダイエーの監督 王は、現役時代にホームランの本数で世界記録を樹立しました。

そのときのインタビューで

「通過点です。」

と答えていました。

子どもはいつも新しいことを経験しています。
新しいことを獲得し、発達していきます。
新しいことを学んで、学習していきます。
子どもはいつも「通過点」にいます。

「ことばだより」の 100 号も「通過点」です。

言語性を伸ばす指導

算数の問題づくりの続きです。
さて今度は子どもに作ってもらいます。
「みかん」の絵カードを使います。
「みかんが 3 こあります。
みかんを 2 こもらいました。
みんなでなんこになりますか。」
などまねをして書かせます。
次は、はじめに示す式を変えます。
そして、つぎに求めるものを変えます。
たとえば、いぬの絵カードを出して、「これで問題を作って」と言います。
「いぬが びきいます。」
と書ければ、いぬの数え方があっていることをほめます。
そして「あります」と「います」が使い分けられたことをほめます。
「いぬが びききました。」
と書ければ、「もらいました」と言うこともあるかもしれませんが、「きました」と言ったことをほめます。

— / — /

漂泊鳥から

3 階の窓から見える景色が

秋ですねと話してくれます。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

— / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — /

=====
ことばだより No.99

ことばのもり 2004.11.10

=====

INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

大学で野球をしていた友だちが言っていました。
キャッチボールの基本は球を相手の胸に向かって投げることだと聞きました。
受け手の身長、技術、能力に応じて、投げ手はスピードを調整しなければならない。
ことばも同じです。
繰り返し少しずつ変化させながら、子どもの問いに応答する。
そうすることで、子どもはことばを覚え、表現していくんだと思います。
同じことを今さっき答えたでしょう。
まだ覚えていないの？
では子どものことばは育ちません。
同じことを問われても、違った方向から答えるようにすればどうでしょうか。

言語性を伸ばす指導

これから、しばらく「かず」のことにまつてまとめます。
子どもにとってむずかしい内容かもしれませんが、ことばの教室でこんなことをして
います。
式からお話し問題を作ることをしています。
はじめに式(3 + 2 =)を示します。
その後、こんな風に例示します。
りんごのシールを3枚と2枚はっている絵カード二つを次のような文が書いてあるプ
リントの上におきます。
「りんごが (りんご3個の絵カード) あります。
りんごを (りんご2個の絵カード) もらいました。」
そして、絵カードと文を指差しながら、
「りんごが3こあります。
りんごを2こもらいました。」
と読み、復唱するように言います。
さいごに、みんなで何個になりますか。
と問います。
そして、式を書き、答えを求め、答えるようにします。
このあと、式を出して、まねさせるようにします。

___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ /

漂泊鳥から

天気の良い日が続きます。

散歩でもしたくなります。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ /

=====
ことばだより No.98

ことばのもり 2003.11.3

=====

INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

「お風呂に 10 まで入っていよう」と子どもに言うことがあります。
それを「少し変えて、みてください。」と幼児のお母さんに話すことがあります。
「犬を十匹まで数えてみよう。」
「一週間を言ってみよう。」
「鉛筆を十本まで数えてみよう。」
「一日(ついたち)から十日(とおか)まで数えてみよう。」
というように。

言語性を伸ばす指導

「はじめに」「つぎに」「それから」「さいごに」、
「一番目に」「二番目に」・・・「最後に」、
時間の経過を表すことばです。
順序だてて話しをするときや作文を書くときに使うと便利です。
教室で何をするのか、何をしたのか話すときに使います。
「はじめに」本を読みます。「つぎに」計算をします。「それから」発音の練習をしま
す。「さいごに」お母さんとお話をします。
と言って指導を始めます。
指導を終えて、出口に向かうときに話しかけます。
「はじめに」本を読みました。「つぎに」計算をしました。「それから」発音の練習を
しました。「さいごに」お母さんとお話をしました。
と言って指導を終えます。
しばらくこれを続けます。

— / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — /

漂泊鳥から

地震の被害にあわれた方へ

お見舞い申し上げます。

阪神淡路大地震を思い出しました。

一日も早く復興することを願っています。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

— / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — /

INDEX

ことば徒然
言語性を伸ばす指導

ことば徒然

4歳代の子どもは、いろいろなことを経験します。
それまでは、身近にいる大人と遊ぶだけでした。
しかし4歳代になると、同年齢の友だちと話しあい、理解しあい、工夫して遊ぶよう
になります。

それまでの大人と自分だけの世界から、大人、友だちと自分の世界につくりかえてい
きます。

このとき、いろいろな退行現象が見られるようです。
急にお母さんに甘えることもあるようです。
親子で体を動かし楽しい時間を過ごしてみてください。
子どもがしたいと言う遊びをし、体を動かしてみてください。

言語性を伸ばす指導

「ザブーン、ジャバ、ジャバ、ジャバ。」
「はんぶんずつ すこしずつ」のくまじいさんが魚を捕まえようと川に入り、歩いて
いる音です。
いすの上に立ちます。
「ザブーン、ジャバ、ジャバ、ジャバ。」
と声に出して、とびおりて歩きます。

子どもにも動作化させます。
そのとき
「チャポーン、ピチャ、ピチャ、ピチャ。」
と言います。
「何か変だね」
と違いを考えてみるのもいいと思います。

— / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ /

漂泊鳥から
今まで気づきませんでした。
発行日を2003年と書いていました。
のんきなものです。

INDEX

ことば徒然
言語性を伸ばす指導

ことば徒然

子どものころ、お祭りに行くと、いつも買って帰りました。
りんご飴です。
りんごが特においしいわけではありません。
飴がそれほどおいしいわけでもありません。
それでも、買って帰りました。
飴をなめてはりんごをかじっていました。
りんご飴を買いに、お祭りに行っていたようにも思います。
りんご飴を買うことを楽しみにしていました。
こだわりだったのかもしれない。
こだわりに近い楽しみがあったからこそ、一人でもお祭りに行けたんだと思います。

言語性を伸ばす指導

発達の課題に、経験を話すというのがあります。
遠足で動物園に行ったのなら、
動物の絵カードを用意しておきます。
ぞうやかば、さるなどの絵カードを見ながら、
「このどうぶつは、見たかな？」
と問います。
「見た」
と返事が返ってきたら、その動物の名前を書きます。
「大きかった？」「何をしていた？」と問いながら、子どもの返事を書いていきます。

「どうぶつえんにいきました。
ぞうをみました。
大きかったです。
あるいていました。」

書いたものを読めば、経験を話しにくい子も表現できたことになります。

教室ではこのような方法を繰り返しています

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

漂泊鳥から

日差しがやわらかくなりました。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

=====
ことばだより No.95

ことばのもり 2003.10.13
=====

INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

「説明したからわかるでしょ」

とついつい思ってしまいます。

わからないんだから、もう一度同じ説明をすることです。

それで、わからなければ、ちがう方法で説明することです。

それでも、わからなければ、同じような問題を同じように解かせることです。

理解できなくても、どんな方法で解けばいいのかわかるでしょう。

子どもには変化させながら、繰り返し対応することが大事です。

言語性を伸ばす指導

かさの絵カードを並べます。

「おおきい」「ちいさい」に分けます。

「おおきい かさ」と「ちいさい かさ」と表現します。

同じ物で大きさが見てわかるように描かれた絵カードを並べていきます

「おおきい ぼうし」と「ちいさい ぼうし」

「おおきい くつ」と「ちいさい くつ」

.....

次は違うもので大きさが見てわかるように描かれた絵カードを並べます。

「おおきい おにぎり」と「ちいさい たね」

「おおきい ぞう」と「ちいさい あり」

.....

そして、ほぼ同じ大きさにかかれた絵カードを並べます。

ここではイメージを問います。

「本当はどっちが大きいかな」

.....

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

漂泊鳥から

台風が過ぎてやっと晴れました。

皆さんおところではどうでしたか。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

=====
ことばだより No.94

ことばのもり 2003.10.6

=====
INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

雷が鳴っています。

「ゴロゴロ」という音が耳から入り、光が目から入ってきます。

最後に音がおなかに響いてきます。

雷の怖さが、耳から、目からそしておなかから伝わってきます。

子どものころは、雷さんに持っていかれては大変と、おへそをおさえていました。

ありえないと思いながらも、おへそをおさえていました。

もしかしたら、雷の音がおなかに響いてくるのをやわらげていたのかもしれない。

おへそをおさえることで、怖さを少しでも感じないようにしていたのかもしれない。

子どもが、怖さを感じることも大切ですね。

言語性を伸ばす指導

りんごの絵カードを用意します。

3個のりんごと2個のりんごを見せて

「どっちがおおい？」と聞きます。

次に

「いくつちがう？」と聞きます。

3個のりんごと2個のりんごの絵カードを縦にならべて、比べます。

1こちがう

ことを確かめます。

そして、

3このりんごのほうが1こおおい。
2このりんごのほうが1こすくない。
と教えます。
りんごの絵カードを使い、ほかの数でも確かめます。

_ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ /
漂泊鳥から
栗の木の実がはじけました。
急にすずしくなりました。
ことばのもり 管理人 漂泊鳥
_ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ /

=====
ことばだより No.93

ことばのもり 2003.9.29
=====

INDEX

ことば徒然
言語性を伸ばす指導

ことば徒然

運動会のシーズンです。
課題をマイペースでやる子が、意外と足が速かったり、
大人の指示を聞かない子が、高学年のお兄ちゃんやお姉ちゃんに手を引かれていたり、
声の小さい子が応援団に入ったり、
一対一の指導場面の様子しか知らない自分には、運動会は発見の場です。
「子どもが集団のなかでどのように過ごしているか」を見るいい機会です。

去年の子どもの姿を思いだしながら、見ていると子どもの発達に気づきます。

言語性を伸ばす指導

「おおきい」と「ちいさい」、「ながい」と「みじかい」、「はやい」と「おそい」、
「たかい」と「ひくい」、「おおい」と「すくない」など
2つのものを比較することばです。

くつの絵カードを用意し、くつの話をしていきます。

さんのくつは何色？

くんのくつにはどんな絵が描いてあるの？

雨が降るとちがうのはくよね。なんて言うのかな？・・・

等聞いていきます。

次にお父さんと革靴の絵カードを出します。

お父さんのくつとちがうところはどこかな？

と問います。

答えられなければ、「おおきい くつ」「ちいさい くつ」と教えます。

そして、絵カードを出して「おおきい」「ちいさい」を表現につかっていきます。

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

漂泊鳥から

運動会がおわりました。

一日外に出ていて、腕が真っ赤になりました。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

=====
ことばだより No.92

ことばのもり 2003.9.22

=====

INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

幼児の指導を終えてお母さんと話しているときです。

お母さんが幼児の妹の姿を見て、

「あれっ？」と言って、はいはいをしている妹に近づいていきました。

妹さんの口に手を出し、「べっ、して」と言っています。

幼児の妹の唇は閉じたままです。

お母さんは指で唇を開いて、口の中から消しゴムを取り出しました。

「いつも見ているお母さんだからわかるんだ」

と思いました。

お母さんは自分の子どもの専門家だと思いました。

言語性を伸ばす指導

1年には四つの季節があります。

「はる」「なつ」「あき」「ふゆ」を読みます。

今は何という季節かな？と聞きます。

わからないようでしたら、「なつ」の次の季節だよ。何と言う季節かな？とヒントを出します。

それでも出てこなければ「あき」と教えます。

つづけて、「チュウリップ」「ひまわり」「コスモス」の花の絵カードを出します。

今の季節に咲く花はどれ？と聞きます。

「コスモス」であることを教えます。

___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ /
漂泊鳥から

「秋」の話をしていますが、まだまだ暑いですね。

でも確実に秋はきているはず・・・。

きっとどこかに・・・。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ /

=====
ことばだより No.91

ことばのもり 2003.9.15

=====
INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

ことばの教室に指導する幼児といっしょに弟妹が来ることがあります。

発音の練習をしていると、弟妹のほうが先に模倣できることがあります。

舌の動きに癖がある場合は、改善まで時間がかかります。

舌に癖のない弟妹のほうが模倣しやすいんです。

このときは、お母さんに、もう一度、舌に癖があることを話します。

弟妹に、兄姉ががんばっていることを話します。

そして、今までより少し練習時間を長くして、がんばっている様子を弟妹に見せるようにします。

弟妹のほうが先に発音できていることには触れないで、兄姉には、次のようなことを話します。

発音を治せなくてごめんね。

練習をがんばってね。

今がんばらないと、治らないよ。

後もう少しだから、がんばってね。

どれがいいのかな。

言語性を伸ばす指導

「ひかる」と言うことばを読みます。
ひかるものは何かな？と聞きます。
ライト、とうだい、いけ（ことばの教室の窓から、池が見えます。太陽の光を反射させています。）ほし、ほたる、かみなりと答えるでしょうか。
それを文で表現します。

がひかる。

そのあと

まぶしいのはどれかな？

きれいだなと思うのはどれかな？と問います。

次に

かみなりがひかると、　　さんはどう思う？

ほたるがひかると、　　くんはどう思う？

と問います。

答えたのを文にします。

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

漂泊鳥から

夏ばてでしょうか？

今日は一日中眠い。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

=====
ことばだより No.90

ことばのもり 2003.9.8

=====
INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

子どもが自分を追い抜いていきました。
急いでいるわけでもないのに、走り出しました。
数メートル先で、何かを見つけ、とまり、すわりこみました。
じっと下を見えています。
横を通り過ぎるとき、自分も見たのですが・・・。
その子どもには何か見えたのでしょうか。
きっと、光り輝くものが見えたのでしょうか。

言語性を伸ばす指導

「はんぶん」と言うことばを読みます。
はんぶんはどれ？と聞き、
「りんごのはんぶん」「ケーキのはんぶん」「ジュースのはんぶん」を選びます。
正しく選べたら、同じ立方体の積木を八つ積んで子どもに渡します。
「半分だけください」と言います。
次に「半分だけ弟に上げてください」と言います。

___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ /
漂泊鳥から
過ぎやすくなりました。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥
___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ /

=====
ことばだより No.89

ことばのもり 2003.9.1
=====

INDEX

ことば徒然
言語性を伸ばす指導

ことば徒然

2学期が始まります。
「いい休みを過ごしてください」
と1学期の指導を終えるときに声をかけました。
「どんな休みでしたか」
と2学期の指導をはじめの前に聞くようにしています。
日にやけて、真っ黒になりくる子ども、
話すことを楽しみにくる子ども、
誤りのあった発音が改善し、笑顔でくる子ども、
話を聞いた後、いつものように指導をはじめます。

言語性を伸ばす指導

1年生の子どもに2学期にある行事を絵カードを使い、お話します。
「うんどうかい」「あきのえんそく」「はっぴょうかい」のお話をします。
そして、「たまいれ」「つなひき」「かけっこ」「バス」「おべんとう」「おやつ」
「え」「さくひん」「おんがくかい」の絵カードを出します。

「うんどうかい」でするのはどれ？と聞きます。
「たまいれ」「つなひき」「かけっこ」を選んだら、文で表現します。
たとえば、
「うんどうかいが、あります。たまいれやつなひき、かけっこをします。
がたのしみです。」
と言うように・・・。

___ /
漂泊鳥から
2学期がスタートしました。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥
___ / ___ /

=====
ことばだより No.88

ことばのもり 2003.8.25
=====

INDEX
ことば徒然
言語性を伸ばす指導

ことば徒然

小学校の正門のところに大きな木がありました。
子どものあるころ、夏休みになると、せみを捕まえに行きました。
朝から、虫捕り網をもって、木の幹に引っ付いて鳴くせみを捕まえに行きました。
一匹でも捕まえると、うれしくて、かごの中に入れて持ち帰りました。
昼の間、せみで遊んでいました。
夕方には、元気がなくなったので放していたように思います。

それからしばらくしてです。
せみは長い時間土の中で過ごし、成虫として過ごすのは数日だけだということを知りました。

次の年からは、せみを捕まえませんが、せみで遊ぶことはしなくなりました。

言語性を伸ばす指導

PVTの検査の続きです。

「投票」と聞いて、「選挙」「演説」とイメージできるのは聞いて理解する力が強いと言えます。

「演説」の絵を見て、「選挙」「投票」とイメージできるのは見て理解する力が強いと言えます。

実際にPVTの検査をしていて、ここまでは確かめられませんが・・・。

これを確かめられるのがITPAだと思います。

___/

漂泊鳥から

PVTの検査だけで夏休みが終わってしまいました。

この続きは冬休みに、したいと思います。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

___/

=====
ことばだより No.87

ことばのもり 2003.8.18

=====
INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

子どものころ、この季節になると、近くのプールにつれてもらいました。

ある時、足も立たない大人用のプールの真中まで連れて行かれました。

そのときは、まだ泳げませんでした。

必死にもがいて、プールサイドまで泳いだ記憶があります。

近くで親が見ていてくれたと思います。

沈みかけたら、そっと手を伸ばせば届くところにいてくれたんだと思います。

そんな距離感も親子には必要に思います。

言語性を伸ばす指導

PVTの検査の続きです。

「身近なことば、具体的なことばは習得しているようです。

しかし、ことばや絵から類推する力が弱いのかもかもしれません。

会話は目に見えていないことを伝え合います。

そのときに類推する力が弱いと、聞いてもイメージできない。
理解できないのかもしれませんが。」
と伝えるときがあります。(子どもの生活年齢にもよりますが・・・)

投票と聞いて演説の絵を指さします。
このページには、投票している場面の絵はありません。
投票と聞いて、「選挙」「演説」「投票」とイメージできれば、演説の絵を指差すことができそうです。
演説の絵を見て、「選挙」「投票」がイメージできれば、演説の絵を指さすことができます。

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

漂泊鳥から
のんびりとオリンピックを見えています。
のんびりと夏休みを過ごしています。
ことばのもり 管理人 漂泊鳥

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

=====
ことばだより No.86

ことばのもり 2003.8.11

=====
INDEX

ことば徒然
言語性を伸ばす指導

ことば徒然

おじいさんが溝に糸をたらしています。
少しはなれたところで、男の子も糸をたらしています。
ザリガニを釣っているようです。
ときどき、男の子はおじいさんの方を見えています。
ザリガニがつれたか気になるのでしょうかね。
おじいさんが糸をあげると、糸の先には小さなザリガニが一匹いました。

こんな経験もことばを育てるんでしょうね。

言語性を伸ばす指導

PVTの検査の続きです。

子どもは、ことば数が増えるにつれて、正しい発音を獲得していきます。
そして、器質的な問題がない限り、小学校入学前後にはすべての発音を獲得します。
発音の誤りがあり、PVTの検査で語彙年齢が6歳を超えているときがあります。
このような場合、親御さんに次のように話します。

「誤って発音の仕方を学習したのかもしれませんが。」

または、話すための器官の動きが未熟なのかもしれません。」

と。

___ / ___ /

漂泊鳥から

やっとのんびりできそうです。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ /

=====
ことばだより No.85

ことばのもり 2003.8.4

=====
INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

小さいシャボン玉は、ストローから息を強く出せば、たくさんできます。
しかし大きいシャボン玉は、同じように息を一気に出したのでは、できません。
息の調整が必要です。
ゆっくり長く出すことによって、シャボン玉は大きくなります。
サ行の発音は、一気に息を出すのではなく、ゆっくり長く息を出すことが必要です。
大きいシャボン玉を作るように、ゆっくり長く出します。

言語性を伸ばす指導

PVTの検査の続きです。

「学習するには三つの力が必要です。」

聞いて学ぶ力

見て学ぶ力

記憶する

この三つが必要なんです。」

と説明するときもあります。

ページの正答が三つ以下になり、次のページのはじめから三つ続けて誤答か無答のときに検査を中止します。

換算して、生活年齢と語彙年齢を比べます。

語彙年齢のほうが低い場合と高い場合、ほぼ同じ場合の三つに分かれます。

語彙年齢が低い場合には、聞いて学ぶ力が弱いのか、見て学ぶ力でカバーできるか考えます。

高い場合には、聞いて学ぶ力が強いのか、見て学ぶ力はどうか観察していきます。

絵カードを使い、検査をしながら観察していきます。

___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ /

漂泊鳥から

休み前の生活とかわらない生活を送っています。

こんな休みもいいかと思います。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ /

=====
ことばだより No.84

ことばのもり 2003.7.28

=====
INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

女の子をおんぶしているお母さんが電車に乗ってきました。

そのそばに男の子がいます。

男の子がお母さんに何か話しています。

お母さんは腰を下ろして男の子の話を聞いて、

「よかったね」

と笑顔で声をかけていました。

お母さんの笑顔に安心できたんでしょうね。

その後、男の子は、手すりを持って、静かに窓の外を見ていました。

言語性を伸ばす指導

夏休み期間中、いくつかの検査についてまとめてみます。

はじめは PVT (絵画語彙発達検査) についてです。

この検査は、3歳から10歳までを対象にしています。

この検査から語彙年齢がわかります。
理解していることば数がどれくらいあるか判断できます。

68のことばを子どもに問います。
子どもは、そのことばからイメージできる絵を指差します。
はじめは、その絵に描かれているものの名前を問います。
そして、そのものの属性や上位概念、部位の名前を問います。
問うことばは、日常生活から離れていきます。
さらに絵本やテレビ、ビデオで見たり聞いたりしただろうことばを問いつづけていきます。

子どもの記憶や類推する力も関係していると思います。
4ページあたりから誤りが出てくる子どもの親御さんには、次のように伝えることができます。

「日常使うことばは理解できています。
しかし、たまにしか聞かないことば、耳で聞いたであろうことばは、定着しにくい
のかもしれませんが。」

「日常的にくり返し耳から入ってくることばは、定着できています。
たまにしか聞かないことばとそのものをつなげて記憶する力が弱いのかもしれません。」

一例です。
子どもの年齢によっても親御さんに伝える内容は変わります。
また、ここから指導が始まります。

__ /
漂泊鳥から
休みとはいえ、忙しい毎日です。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥
__ / __ /

=====
ことばだより No.83

ことばのもり 2003.7.21
=====

INDEX

ことば徒然
言語性を伸ばす指導

ことば徒然

朝、登園中の子どもが、道のまん中に座り込んでいます。
虫かごをおいて、虫の見せ合いっこをしています。

どこで見つけたのか。
何をえさにあげているのか。
どれだけ力が強いのか。
話しをしているようです。
前を歩く、お母さんに声をかけられて、虫かごを持ち、また歩き出しました。
自慢話しもこの時期の子どもには、必要です。

言語性を伸ばす指導

1年の1学期の終わりには、漢数字が出てきます。
横一列に「一」から「十」まで視写します。
そして、「一」と書き、つづけて「つ」と書きます。
「一つ」をさして、「ひとつ」と読むよ。と教えます。
また横一列に「二つ」「三つ」「四つ」「五つ」・・・と書いていきます。
次はエンピツの数を数えます。「何本ですか。」と問います。
「一ぼん」「二ぼん」「三ぼん」「四ぼん」と数えていきます。
問いに答えて、書いていきます。
数によって読み方が変わります。

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／
漂泊鳥から
1学期が終わりました。
今年は暑くなりそうです。
ことばのもり 管理人 漂泊鳥
＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

=====
ことばだより No.82

ことばのもり 2003.7.14
=====

INDEX

ことば徒然
言語性を伸ばす指導

ことば徒然

雨の季節になると思い出します。

駅から親子3人が歩いて、教室に通ってきます。
雨と風の強い日でした。
子どもはレインコートを着て、傘をさしてやってきました。
お母さんも傘をさしていましたが、右肩からびしょぬれでした。

どうやら、お母さんが右手で子どもの傘を抑えて来られたようです。
子どもが雨にぬれないように・・・。

言語性を伸ばす指導

力比べをします。
と言って、子どもと先生の絵カードを並べます。

「先生が子どもをひっぱる。」
「子どもを先生がひっぱる。」
「子どもをひっぱるのは先生です。」
と言うときはどちらに動いていきますか？
と問い、絵カードを動かします。

次に先生とぞうの絵カードを並べます。

「ぞうが先生をひっぱる。」
「先生をぞうがひっぱる。」
「先生をひっぱるのはぞうです。」
と言うときはどちらに動いていきますか？
と問い、絵カードを子どもに動かすように指示します。

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／
漂泊鳥から
梅雨とは思えないほど、毎日暑い日が続いています。
雨でも降って、涼しくならないかな。
ことばのもり 管理人 漂泊鳥
＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

=====
ことばだより No.81

ことばのもり 2003.7.7
=====

INDEX

ことば徒然
言語性を伸ばす指導

ことば徒然

文房具屋さんで白表紙や色画用紙を買いに行きました。
その日は雨でした。

傘を差していましたが、びしょぬれに近い状態で店に入りました。
紙を選びレジに行くと、
「あれ、ぬれてますね。変えましょう。」
と紙を取り替えてくれました。

店屋さんにしてみれば当たり前の声かけだったかもしれませんが。
自分が急いでいたらどう思ったかはわかりません。
でも、このときの一言で、うれしくなりました。

言語性を伸ばす指導

手をあらっているのはどれですか？
顔をあらっているのはどれですか？
コップをあらっているのはどれですか？
と問い、子どもに指差しをさせます。

つぎに、手をどうしていますか？
顔をどうしていますか？
コップをどうしていますか？
と問い、「あらっています」「あらう」と言う動きのことばを答えさせます。

つづいて「なにをあらっていますか？」
と問い、あらっている部位、ものの名前を答えさせます。

一枚の絵カードを指さし、
「何をしていますか？」
と問い、答えを待ちます。

___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ /
漂泊鳥から
夏風邪を引いてしまいました。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥
___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ /

=====
ことばだより No.80

ことばのもり 2003.6.30
=====

INDEX
ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

図書券がずいぶんたまりました。
久しぶりに本屋さんに行きました。
(最近、インターネットで本も買うようになっていました。)
少し驚きました。
本棚の端っこに一人がけの椅子が置いてありました。
絵本のコーナーには子供用のテーブルと椅子が置いてありました。

本を選びやすい環境を作っているんだろうと思います。
これからの季節暑くなってきます。
本を手に取り、ページを開いて、本を選ぶのもいいかと思います。

言語性を伸ばす指導

りんごの絵カードを見て
「りんご」について話をします。
「色は」「形は」「味は」などを話します。
そして文で表現をします。
「りんごは あかい。」
「りんごは まるい。」
「りんごは おいしい。」
つぎに「これはどんなりんごですか?」と問います。
答え方のモデルとして
これは「あかい りんご」です。
と教えます。
できれば書いて見せてあげればいい。
そして「これはどんなりんごですか?」と問います。
これは「まるい りんご」です。
これは「おいしい りんご」です。
モデルをまねして、答えを促します。
_ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ /
漂泊鳥から
汗をかく季節ですね。
少し歩いただけで、汗が流れてきます。
ことばのもり 管理人 漂泊鳥
_ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ /

=====

=====

INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

親御さんの許可を得て、子どもの発音を録音しています。
少し前までは、カセットテープに録音していました。
今は IC レコーダーを使っています。
テープと違い録音したいときは、スイッチひとつで頭だしをしてくれます。
ただ、仕方のないことですが、一人ひとりの録音に番号がつきます。
パソコンを使いフロッピーや CD に保存するときは、名前を入れて保存するようにしています。
個人情報ですから、管理には気をつけるようにしています。

言語性を伸ばす指導

場所の絵カードを見せます。
どこにいきますか？
と問います。
やまに いきます。
2 かいに いきます。
ゆうえんちに いきます。
うみに いきます。
いえに いきます。
びょういんに いきます。
そして次に、同じ絵カードを見せて
「いきます」を使いません。
よく聞いて答えてね。
と話し、問います。
どこにのぼりますか？
どこにあそびにいきますか？
どこにかえりますか？
どこにいそぎますか？
問いに対応する答えを求めます。

もう一度絵カードを見せて、お話ししてくださいと指示します。

おとこの ひとが やまに のぼります。
と例を示すのもいいです。
文を書いたカードを読ませてあげるのもいいです。
読んだ後、だれが？ どこに？ どうしますか？と問い直すのもいいです。
そして、もう一度文で表現させてあげてください。

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／
漂泊鳥から
梅雨の一休みもおわり、雨がふりつづきますね。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥
＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

=====
ことばだより No.78

ことばのもり 2003.6.16

=====
INDEX

ことば徒然
言語性を伸ばす指導

ことば徒然

三階の窓から、幼稚園に子どもさんを送る親御さんを見ていて気づきました。

冬の寒いときはそんなでもなかったんですが。
暖かくなるにつれ、親御さん同士が話し込んでいるということです。

暖かくなるにつれ、三階まで声が聞こえてきそうです。
「話に花が咲く」
つぎからつぎへといろいろな話が出てくることを言います。
暖かくなると、話もしやすいのでしょうね。

寒くなると口が堅くなり、
暖かくなると口が軽くなるようです。
気温と話す量は関係がありそうです。
気温が高くなりすぎるとどうでしょう。

言語性を伸ばす指導

次は、「たつ」と「すわる」「きる」「かぶる」「はく」と「ぬぐ」「とめる」と「はずす」といった配列絵カードを使います。

どこにすわりますか？

どこからたちますか？

と問い、文に表現できたら、必ず逆からも問います。

いすにどうしますか？

いすからどうしていますか？

と問い、文に表現させます。

___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ /

漂泊鳥から

雨の日がつづきます。

気持ちだけでも、軽やかにすごしたいと思います

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ /

=====
ことばだより No.77

ことばのもり 2003.6.9

=====
INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

子どもが「あつい」と言ったとします。

返事が「そう、あつい」では子どもの求めている答えになっていない場合があります。

時間は、3時ごろ。

場所は、家の玄関口。

季節は夏です。

外から帰ってきた子どもが言ったとします。

「麦茶が冷えているよ」と返事をするとします。

季節が冬だったら、

「え、熱でもあるの」と子どものおでこに手を当てるとします。

同じことばでも場面により、伝えようとするのがちがいます。

伝えようとしていることを理解し、対応することが必要です。

言語性を伸ばす指導

次の段階では、先の動作絵カードを使って、5W1Hをつけて、多語文にしていきます。

「どこへ」はしていますか？

「だれが」あるいていますか？

「なにを」たべていますか？

「どこで」あそんでいますか？

文にしやすいように問いに対応した「助詞」を置いて、表現させます。

___ /
漂泊鳥から
梅雨入りですね。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥
___ / ___ /

=====
ことばだより No.76
ことばのもり 2003.6.2
=====

INDEX
ことば徒然
言語性を伸ばす指導

ことば徒然

日々の生活の中で必要な刺激を受けとめて、発達していきます。
階段を一段ずつのぼることに似ています。
ときには不安に思い、立ち止まり休むことがあっていいと思います。

必要な刺激を受けとめることができにくい子には、まわりの大人が刺激を
与えつづけて、発達を支援していきます。
エスカレーターをのぼっていくことに似ています。
これも、立ち止まり休むことがあっていい。
ただ適切な刺激でないと、エスカレーターから転げ落ちてしまう。
子どもの発達、障害の特性に配慮して、適切な刺激を与えないといけない。

言語性を伸ばす指導

同じ時期に、動作絵カードも使い始めます。
「あるく」「はしる」「すわる」「のる」「たべる」などの動作絵カードを使います。
絵カードを見せて

「なにをしていますか？」
と問います。
子どもが
「あるいてる」
と答えます。
「そう、あるいているね。
じゃ、だれがあるいているのかな。」
と問います。
答えが返ってこなければ、
「男の子かな、女の子かな、」
と問い、答えを促します。

次は文で表現させます。

「だれが？」
と問い、「が」の文字をおきます。
「おとこのこ」と答えるとすぐに、
「が」を指差し、読みます。
「何をしていますか？」
と問い、
「あるいて いる。」
と答えるのを待ちます。
「おとこのこが あるいて いる。」といった文にして復唱させます。
単語カードに書いて、復唱しやすいようにします。

___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ /
漂泊鳥から
天気のいい日が続いていましたが、
梅雨入りももうすぐ・・・。
ことばのもり 管理人 漂泊鳥
___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ /

=====
ことばだより No.75

ことばのもり 2003.5.26
=====

INDEX
ことば徒然
言語性を伸ばす指導

ことば徒然

近鉄が大軌と言われていたころ、この地域には松の木が多かったらしいです。
秋になるとまつたけ狩りで、臨時停車していたと言います。
今は松の木が枯れてしまいました。

松の木にかわり、桜の木がふえ、入学式前後には桜の花がきれいです。
冬の冷たい風が吹くときも、枝につけた芽をふくらませています。

子どもの発達は身近な大人には見えにくいものです。
しかし、適切な刺激を受け、少しずつ確実に芽をふくらませています。
枯れてしまった松の木にならないように注意して、
適切な刺激であることを忘れないように・・・。

言語性を伸ばす指導

ほかの絵カードでも同じように一般化するように促します。
先に「えんぴつ」や「かさ」で教えた表現法で次のものを説明できるように指導しま
す。

「クレヨン」「けしゴム」「ながぐつ」「ぼうし」の絵カードを使います。
「えんぴつは じを かく ものです。」
文章カードを見せて「えんぴつ」を「クレヨン」に置き換えて、読みます。

「クレヨン」は じを かく ものです。
字もかくけれど、何かをかくときに使うよね。
と問います。

答えが返ってこなければ、
「幼稚園で何かをかくよね」
と問い、
「えをかいた」という経験を思い出させます。

それで、
「クレヨンは えを かく ものです。」
と一般化した表現をしていきます。

同じように
「けしゴムは じを けす ものです。」
「ながぐつは あしを ぬらさない ものです。」
「ぼうしは あたまに かぶる ものです。」
と表現していきます。

— / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — /

漂泊鳥から
台風2号の影響か雨の日が多かったです。
びしょぬれになって家に帰りました。
ことばのもり 管理人 漂泊鳥

— / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — /

INDEX

ことば徒然
言語性を伸ばす指導

ことば徒然

1時間の指導の中で子どもに

「がんばれ」

と何回声をかけるだろう。

大人は、ついついこの程度のことなら、できて当たり前だと思い課題を出してしまう。

そんなときに「がんばれ」ということばになってしまう。

これでは、何をどうがんばればいいのかわからない。

大人が子どもに「がんばったね」と声をかけられるのはいつなんだろう。

それは、大人が、子どもの発達にみあった適切な課題を出したときだろう。

自分は、前者の大人になってしまうことが多い。

言語性を伸ばす指導

6歳のころになると、そのものの用途を説明し、一般化した表現ができるようになります。

「えんぴつ」の絵カードを見せて、「これは何ですか」「お話して」と問います。

「色鉛筆を買ってもらった」

「字を書く」

と答える子がいます。

「かさ」の絵カードを見せて、同じように問うと、

「青いのをもってる」

「雨の日にさす」

「ぬれないようにさす」

と答える子がいます。

「えんぴつは字を書くものです。」

「かさは雨にぬれないようにさすものです。」

経験だけを答える子に、用途やより一般化した答えを教え、表現するように教えます。

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

漂泊鳥から

休みの日に雨がよく降ります。

よけいに外に出なくなってしまう。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

=====
ことばだより No.73

ことばのもり 2003.5.12
=====

INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

近くの寺に、天井にとどきそうな千手観音像があります。
千本も手があると羽のように見えてきます。
迫力があり、今にも飛んでいきそうです。
この手で極楽に導いてくれると言います。

はじめてことばの教室の担当になった4月のことです。
もう一人の担当の先生がか行の発音の誤りに指導されているのを見たときは驚きました。
指で前舌を抑えただけで、か音が出てきたのです。
まるで、その担当者の手が千手観音の手のように見えたのを覚えています。

サイエンスに裏付けられた指導方法を千も持つことができれば、きっと迫力も出てくるでしょう。
今の自分はまだまだ遠い。

言語性を伸ばす指導

子どもは2歳代のころから

「大きい」と「小さい」「長い」と「短い」など反対概念を獲得していきます。
ものに名前をつけ、同じ名前のもものちがいを認識し、反対の概念を獲得していきます。

5歳ころになると、四角を「大小」に書き分けることができるようになり、その中間も芽生えてきます。

6歳ころには、正面横向き的人物画も描くようになります。

このことはイメージが育ち、視点の移動ができることをあらわしています。

言語性を伸ばすために、こんな指導もしています。

「ふね」と「あり」の大きさ比べをします。

- ・「大きいふね」を描いた絵カードと「小さいふね」を描いた絵カードで「大小」を比べる。
- ・「大きいふね」と「小さいふね」が1枚に描かれている絵カードで「大小」を比べる。
- ・「大きいふね」を描いた絵カードと「小さいあり」を描いた絵カードで「大小」を比べる。
- ・同じ大きさに描かれた「ふね」と「あり」の絵カードで「大小」を比べる。

_ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ /
 漂泊鳥から
 連休が終わり、
 何もしていないのに連休疲れが出てきました。
 ことばのもり 管理人 漂泊鳥
 _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ /

=====
 ことばだより No.72

ことばのもり 2003.5.5

=====

INDEX

ことば徒然
 言語性を伸ばす指導

ことば徒然

「先生いる」

と朝登校してきてすぐにことばの教室をたずねてきた子どもがいます。
 話を聞くと、教室にカレンダーを持ってきたようです。

このあと、こんなことを思いました。
 教室で先生が「きょうは何日かな？」と聞く場面があって、
 この子が気をきかせて、持ってきてくれたのかな。
 そのカレンダーを先生に見てもらい、先生の喜ぶ顔を見たかったのでしょうか。

この学級の子どもは、承認の欲求が満たされていると思いました。

言語性を伸ばす指導

子どもは、食べ物や乗り物、動物などが好きです。
 また日用品はいつも目にしていて、その名前も耳にしています。
 この絵カードは、教育相談で初対面の子どもに使います。

単語の構音検査や文章構音検査で使います。

こんな風にすると、記憶力も確かめることができます。

- ・名前がわからなくても、裏に書いてある文字を見せて読ませます。
そのカードを表に向けて、「これは何だった」と問う。
- ・ネーミングできたカードを並べて「 と と をください」といってとらせる。
- ・文章をリピートさせる。
- ・ネーミングできた三枚の絵カードを裏に向けて、「これは何」と問う。

短期の聴覚的記憶、視覚的記憶を確かめることができます。

___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ /
漂泊鳥から
今日で休みも終わり。
いやいや、真っ只中と言う人もいるのかな。
うらやましい限りです。
ことばのもり 管理人 漂泊鳥
___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ /

=====
ことばだより No.71

ことばのもり 2003.4.28
=====

INDEX

ことば徒然
言語性を伸ばす指導

ことば徒然

作文を書けない理由はいくつか考えられます。

「前の時間、何をしていたの？」

と聞くと

「わすれた」

と言う子がいました。

教室に来る前のことです。

自分の問いにどう答えていいのかわからなかったのもしれません。

もしかしたら教科書の何ページを勉強したの？

と問えば、答えたかもしれません。

前の時間にしたことを整理しきれなかったかもしれません。

順序だてて説明できなかつたのかもしれません。

あれもこれもいっぱいいたけれど、
どれから答えればいいのかわからない場合もあるでしょう。

言語性を伸ばす指導

50音に分けてある絵カードは、発音の練習で単語のレベルまできた子どもに使います。
たとえばサ行の発音に誤りがある子どもがことばの教室に通級していたとします。
歯間化やストローを使い息の摩擦ができ、単音連続音で発音ができた子どもに、この
絵カードを使います。

およそ次のようなステップを踏んでいきます。

- 1、その名前を書いた単語カードを読み、絵カードと対応させる。
- 2、サ行の文字カードを置いて、ネーミングする。
- 3、絵カードを見て、その名前を聞いてリピートする。
- 4、「これは何ですか」の問いに、自発でネーミングする。

___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ /
漂泊鳥から
暖かい日が続きました。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥
___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ /

=====
ことばだより No.70

ことばのもり 2003.4.21
=====

INDEX

ことば徒然
言語性を伸ばす指導

ことば徒然

よだれは年齢や季節によって出方が変わります。
小学校に入学してもひどい場合は、問題です。
口の周囲の筋肉の働きが弱い場合
舌の突出が強い場合などが考えられます。
よだれをふき取るハンカチをいつももたせて、自分でふき取る習慣を
つけることが大切です。
また、口の周囲の筋肉の力、舌の筋肉の力を強くすることも大切です。

言語性を伸ばす指導

絵カードにはいろいろあります。

次のように分けています。

・ 50音に分けてある絵カード。

これは、発音の練習で単語レベルまで指導してきた子どもにつかいます。

・ 食べ物や乗り物、日用品、動物などの名前をあらわす絵カード。

食べ物の絵カードでその色や好きな果物や嫌いな野菜を聞いていきます。

色や好き嫌いをつけると2語文、3語文になります。

・ 公園や遊園地、山、海などの場所や上下左右など位置を表す絵カード。

・ 家族や店屋の人、お医者さんや看護師さん、おまわりさん、消防士さんなど、人やその人の仕事をあらわす絵カード。

・ 桜やチュウリップ、ひまわりなどの花、雪だるまなど季節や時をあらわす絵カード。

・ 飲む、食べる、乗る、座るなど、うごきを表す絵カード。

・ 笑っている顔、泣いている顔、苦しんでいる顔、おこっている顔など表情を表す絵カード。

・ 登校し、ランドセルをロッカーにしまい、学習し、休み時間に遊び。給食を食べる学校生活の場面をあらわした絵カード。

・ 家に帰り、宿題をし、習い事に行き、夕飯の準備をし、夕食を食べ、歯を磨き、寝る家庭生活の場面をあらわした絵カード。

・ ウサギと亀が競争して亀が勝つお話の展開をあらわした配列絵カード。

子どもの言語発達に応じて使い分けています。

___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ /

漂泊鳥から

ツバメが飛んでいます。

いつもの場所に巣を作っています。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ / ___ /

=====
ことばだより No.69

ことばのもり 2003.4.14

=====
INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

指しゃぶりは3ヶ月ころからはじまります。

これが長く続くと、歯のかみ合せにすき間ができることがあります。
そのすき間に舌をはさんでしまう癖がつく場合があります。
その癖がつくと発音に誤りが出てくる場合があります。

だから指しゃぶりをやめさせよう、と言うものではありません。
指しゃぶりで不安を表現しているのかもしれない。
もしかしたら、指しゃぶりをすることで安心しているのかもしれない。

新しい経験をつませてあげてください。
お母さんといっしょに楽しい経験をすることです。

言語性を伸ばす指導

絵カードにはいろんな絵カードがあります。
一つのものを描いた絵カード。
これは単語構音検査につかいます。
ネーミングしながら、語彙数を確かめることができます。
色を聞くことでそのものの属性をどれだけことばにできるか確かめることができます。
またその絵カードの間に助詞をおくと、文章構音検査にも使えます。
語連鎖の練習にも使えます。
食べものの絵カードを並べて、
「野菜をください」
「果物をください」
といえ、上位概念を確かめることができます。
また並べた絵カードの名前を二つ三つ言って、子どもにとらせると記銘力を確かめる
こともできます。
大きさ比べをしたり、長さ比べをすることで、「おおきい、ちいさい」「ながい、みじ
かい」といった比較語を習得しているか、
「車のタイヤの数はいくつ」
と問うことで、視点を変えて見られるか、
など
名前が言えるかだけでなく、一人ひとりの子どもの発達を確かめることができます。

___ / ___ /

漂泊鳥から
始業式、入学式がおわりました。
1年から6年生の子どもが
桜の花が舞う中を
元気に通ってきます。
ことばのもり 管理人 漂泊鳥

___ / ___ /

=====
ことばだより No.68

ことばのもり 2003.4.7

=====

INDEX

ことば徒然
言語性を伸ばす指導

ことば徒然

筋肉の働きにより、舌が形を変え、位置を変え、音を作ります。
舌を動かす筋肉は一つではありません。
おおきく分けると、内舌筋と外舌筋の二つに分けられます。
この筋肉の協応運動によって、音が作られます。

発音に誤りのある子たちの中に、舌筋の協応運動を誤って学習した子がいます。
ことばの教室では、誤った舌筋の協応運動を正しい協応運動にかえていきます。

言語性を伸ばす指導

4月がスタートしました。
新しい学年のスタートです。

これからは、教材を使い、何ができるか、子どもの何を確かめることができるか、ま
とめてみようと思います。
一度記事にしたことと同じ内容になるかもしれませんが・・・。

まずは絵カードです。
絵カードにはいろいろあります。
教育相談で使う絵カードは、自作でもいいと思います。
ただ、発音の誤りを確かめることのできることばの絵カードでないといけません。
音数の少ないことばのほうが発音の誤りは確かめやすいです。
しかし、音数が増えると舌の動きが未熟でいえなくなる子どもがいます。
聞こえに問題があり、復唱できない子もいます。
ネーミングや復唱させながら、確かめていきます。

— / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — /

漂泊鳥から
風の手が
枝を揺らして
花踊る

4月に教室の窓から外を見ていて・・・

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

— / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — /

INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

発音するための大切な器官の一つに舌があります。
形を変え、位置を変えることで、声道に狭めや閉鎖を作ります。
ここに肺からの呼気が通ることで、音を作ります。
教育相談では、かならず舌の動きを検査します。
舌を前後、左右、上下に動かすことができるか検査します。
その舌の動きも発達の中で獲得されます。
2才代では、舌を前に出し、下唇をなめることができ
3才代では、舌を左右の口角に動かすことができ
4才代では、上唇をなめることができはじめます。
下唇で舌先をあげている子がいました。
舌先を上唇にあげるときは、かならず下の歯が見えていることを確認します。

言語性を伸ばす指導

絵カードを見せて、
「なにをしていますか？」
と問います。
「てを あらっています。」
と答えるでしょう。
「で」と「を」のひらがな文字を見せて、
「きょうは、これを使って文作りをします。
なにで てをあらっていますか？」
と問います。
「みずで」
と答えたら
「文にしてみるよ。
てを みずで あらっています。
みずで てを あらっています。」
「で」と「を」の文字を見せながら文を作ります。
このあと、ほかの絵カードをつかって、練習します。

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

漂泊鳥から

3月26日 開花宣言

つぼみが膨らみかけてから、咲くのを待っていました。
__ / __ / __ / __ / __ / __ / __ / __ / __ / __ / __ / __ / __ / __ / __ /

ことばだより No.66

ことばのもり 2004.3.24

INDEX

ことば徒然
言語性を伸ばす指導

ことば徒然

お気づきでしたか。
前前号から、言語性を伸ばす指導はお母さんへの話しになっています。
幼児期の子どものことばを育てるのは、子どもの一番近いところにいるお母さんなん
です。
幼稚園や保育園の集団生活からも刺激は受けてきます。
しかし、それだけにまかせていたのでは、子どものことばの問題は解決しません。
ことばの教室で指導を受けただけでも改善しません。
家で子どもとむかいあい、ひらがな文字を読み、書くことを通して
母子の関係を作りなおすつもりで取り組むことが必要です。
ことばの教室はその取り組みの舵取りの役目をするだけです。

言語性を伸ばす指導

会話では、助詞を使わなくても通じます。
誤って使っても通じます。
しかし、ここにもう一つ条件が加わると、話しは通じにくくなります。
たとえば、
・自分だけの経験を話すときに
・はじめての人と話すときに
・たくさんの人の前で話すときに
・話すスピードが速くなると
・発音に誤りがあると
・長く話すと
などの条件が重なると、通じにくくなります。
ことばの教室では、先生と子どもとの間でことばの問題が改善するように
取り組みます。
家庭では、親御さんと子どもとの間でことばの問題が改善するように
取り組んでください。
そうすることで、問題の改善に一步近づきますから。

__ / __ / __ / __ / __ / __ / __ / __ / __ / __ / __ / __ / __ / __ / __ /

漂泊鳥から
卒業式がおわりました。
式では6年生の一番いい顔を見ています。

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

ことばだより No.65

ことばのもり 2004.3.17

INDEX

ことば徒然
言語性を伸ばす指導

ことば徒然

3才代の子どもは、自分の世界を表現しはじめます。
お母さんやお父さん、身近にいる大人に自分の表現を理解してもらえたら喜びます。
同年齢の子どもも求めはじめます。
しかしまだ、集団生活に対応できるほど発達はしていません。
身近にいる大人が、子どもと一対一の関係を作ることが必要です。
そこで子どもの表現を受け入れ、いっしょに楽しい時間を過ごすことです。
身近にいる大人との関係に支えられて、友達の中に入っていきます。

言語性を伸ばす指導

指導のあと、お母さんに話します。

きょうは
何をしていますか？
という問いには
～をしています。
と答えるように指導しました。
日記を書くときだけでいいです。
「何をしていましたか？」
の問いに、
「～をしていました。」
と答える練習をして見てください。
そして書くようにしてください。
次回は「～で」を指導します。
はさみで かみを きります。
せっけんで てを あらいます。
くれよんで えを かきます。

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

漂泊鳥から

一日天気のいい日でした。

__ / __ / __ / __ / __ / __ / __ / __ / __ / __ / __ / __ / __ / __ / __ / __ / __ /

ことばだより No.64

ことばのもり 2004.3.10

INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

作文を書けない子どもがいます。
その理由はいくつか考えられます。
文字を書くことを苦手にしていたらどうでしょう。
視知覚の発達や手の巧緻性が育っていない子は、書くことが苦手です。
1年生の授業では、ひらがなを習得した後、かたかな、漢字と苦手な課題が続きます。
また、かたかな、漢字を習得するために、宿題が出ます。
さらに日記で「正しく使えるように」と子どもに求めます。
しかし、
休み時間に「がんばってるね」と声をかける
かたかなや漢字の学習中に、ていねいに書けていることをみんなの前で評価する
漢字の宿題のますを大きくし、書きやすいように配慮する
宿題のノートに「よくできました」と一言書く
ことで、作文を書きたがらない子どもの反応もずいぶんちがってきます。

言語性を伸ばす指導

子どもがテレビを見ている絵カードを用意します。
「この子は何をしていますか？」
と聞きます。
「テレビ みてる」
と答えが返ってきました。
「この前はそのまま書いたね。
きょうはもう一つ勉強するよ。」
「なにを」と聞かれれば、「～を」をつけてね。
「テレビ みてる」でもわかりますが、
「なにをしていますか」と聞いたから、
「てれびを みてる」と答えてね。
このあと「何を」の問いに答える練習をします。
いくつかの絵カードを見せて、
「なにを していますか？」と問い

「かみを きってる」
「みかんを たべてる」
「てを あらってる」と答える練習をします。
そして原稿用紙に書きます。

＿/
漂泊鳥から
やはり冬でした。
＿/

ことばだより No.63

ことばのもり 2004.3.3

INDEX

ことば徒然
言語性を伸ばす指導

ことば徒然

乳児期の終わりごろになると、
自分のことを「　　ちゃん」と名前と呼ぶようになります。
それから、自分がいつも遊んでいるおもちゃを「　　ちゃんの」と言うようになります。
自分のものであることを主張しはじめます。
しばらくすると、自分のおもちゃを人が使っていると、
「　　ちゃんの」といっておこりだすこともあります。
自分の場所として、お母さんのひざの上に兄弟がすわれば、
おこりだすこともあります。
「自分の世界」をことばで表現し始めます。
このころから、だだこねも出始めます。
また、同時に自分より小さい子に関心を示し始めます。

言語性を伸ばす指導

ひらがな文字を読みはじめると、次は書くことに取り組みます。
ひらがな文字を読むときと同じように、行ごとに書く練習をしていきます。
ほぼ書けるようになると、次は「日記」を書くように練習します。
「朝、家で何をしていた？」
と聞きます。
「マンガ、みてた」
と答えれば、それを原稿用紙に書きます。
まんがみてた
「よくできました。
ひらがなを覚えたから、話したことを書けたね。」

がんばったね。

文の終わりには、必ず「。」をつけてね。」

と子どもに声をかけます。

そのあと、

「日記を書かせてあげてください。

短い文でいいから書かせてあげてください。

一日の出来事のひとつにしぼって、お母さんが聞いてあげてください。

子どもがそれに答えて、それを書くようにしてください。

たとえば、

きょうは、だれとあそんだの？

くん

くんとどうしたの？

あそんだ

とやりとりのあと、書くようにしてください。

ひらがな文字のまちがいを訂正するだけでいいです。

書いたことをほめてあげてください。」

とお母さんに話します。

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

漂泊鳥から

学校に行く途中にある池で

水鳥が魚を食べていました。

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

ことばだより No.62

ことばのもり 2004.2.25

INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

小学校の生活は、朝の会、学習、休み時間、給食、掃除、終わりの会と時間が区切られています。

決められた時間があります。

保育園や幼稚園と比べると、時間ごとにどんどん変化していきます。

ある子どもには、変化があって、楽しいかもしれませぬ。

いっぽうで、その生活リズムに慣れるまでたいへんな子どももいます。

1年生の学習を少しずつ今からしておけば、学校生活に慣れるまで時間がかかっても、学習の方は安心できます。

休みの日に小学校への道のりを歩いてみたり、

45分単位で区切りをつけて過ごしてみたり、

昼ご飯の準備を手伝ってもらったり、

掃除をいっしょにしてみたり、・・・。
一日楽しく過ごせそうに思います。
学校に入学してから、学校生活のリズムを一から身につけるのではなく、
学校生活のリズムに慣れるという意味で休みの日にやってみると楽しいように思います。

言語性を伸ばす指導

文を書いても

「何を書いているのかわからない」
と評価されてしまい、書くのをいやがる子がいます。
確かにその子が書く文は
主語と述語が対応していなくて、
助詞の使い方、
修飾語の使い方、
接続詞の使い方が誤っています。
教科書を読んで、
「だれが、出てきましたか？」
「その人が何をしたのですか？」
と問います。

その答えをつないで、短い文で表現するように指導します。
短い文をつなげることで、主語と述語が対応していないことに気づきやすくなります。
助詞の誤りも少なくなります。

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／
漂泊鳥から
まだお水取りはすんでいないというのに
ずいぶん暖かい日が続きます。

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

ことばだより No.61

ことばのもり 2004. 2.18

INDEX

ことば徒然
言語性を伸ばす指導

ことば徒然

はじめは、絵カードをお菓子の箱に入れていました。
使いやすいように、運びやすいようにと自分で作りはじめました。
白表紙、ダンボール紙を使い、つくります。
絵カードの大きさにあわせて箱をつくります。
いろいろ工夫しながら、いろいろ作りました。

ことばの教室では、誤った発音をただしていきます。
その子にあった方法で改善していきます。
いろいろ試しながら、改善を図ります。
この過程は、絵カードをしまう箱つくりと似ています。
手作りのよさです。
アートの部分です。

言語性を伸ばす指導

書くことが不得意な子がいます。
まとまらないのが原因の一つのようです。
書いたのを読むと、
助詞の使い方が誤っていたり、
いつのまにか、主語と述語が対応しなくなったりしています。
書いているうちに、ごちゃごちゃしてくるらしい。
一文が長すぎるようです。

読みながら

「これはどういうこと？」

と聞いていると、伝えたいことがみえてきます。

「短く書こう」

と言って、はじめの部分はモデルを示すつもりで、書いていきます。

「続きは書いてごらん」

と言って書いてもらいます。

— / — /

漂泊鳥から

風がうなっています。

季節はずれの台風のようです。

— / — /

ことばだより No.60

ことばのもり 2004. 2.11

INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

発音に誤りのある子どもの個別指導計画をつくっています。
教育相談に来室した日、
名前、在籍園、在籍校、年齢、
生育歴、主訴
構音器官、単音・単語・文章構音検査、評価、指導計画と指導日

まとめ

を表にしたものです。

教育相談の結果は、毎回書いています。

ことばの教室で子どもに指導したことも、毎時間書いています。

ただ、それとはちがい特別支援教育の実施にむけて役に立てばと思い、まとめ始めています。

・特別支援教育にむけて <http://www3.kcn.ne.jp/~ntakashi/siryou/keikaku.htm>

言語性を伸ばす指導

書くことをいやがる子がいます。

書くことがないと言います。

「書くことはいっぱいあるよ。

書くことで、君しか知らないことを人に伝えることができるよ。

たとえばこんなのは君しか知らないことだよ。

朝、お母さんとどんな話をした？」

ことばの教室に来るまで、どんな話をした？」

と聞いて、原稿用紙に「」だけで書きます。

「きょうの一時間目に何を勉強した？」

と聞いて、連絡帳を見て、思い出し、教科書のページから書き始めます。

それでもなければ、

「きょうの給食は、おいしかった？献立はなんだった？」

と聞いて、献立表を見て、思い出します。

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

漂泊鳥から

今日も風が強く、晴れているかと思えば、

雪が舞う天気です。

寒い日です。

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

ことばだより No.59

ことばのもり 2004. 2. 4

INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

その日は、朝から雨が降っていました。

通級する子どもを待ちながら、窓から外を見ていました。

傘もささないで、帰る子がいました。

ついさっきまで雨が降っていたので、3階から声をかけました。
「もう雨やんでる？」と。
その子は周りを見まわし、3階の方を見上げました。
「はい、もうやんでいます。」
とていねいに答えてくれました。
ていねいに返答されて、少し驚きました。
「ありがとう。気づけて帰りや。」
とまた声をかけました。
そして
「もう少ししてていねいに、返した方がよかったのかな。」と思いました

言語性を伸ばす指導

「赤ちゃんを抱いて、かさを指しているお母さんが、女の子に
「わすれものよ」
と声をかけています。」
と説明できる場面絵カードを使って、表現のし方を指導します。
子どもに表現してほしい一つ以外はかくしてしまいます。
はじめは、天気とかさをさしている女の人以外はかくします。
そして
「だれが、何をしていますか」
と問います。
「女の人がかさをさしています。」
と答えが返ってきます。
女の人が抱いている赤ちゃんのところまで子どもに見せます。
そして、
「何をしていますか」
と問います。
「女の人がかさをさしています。赤ちゃんを抱いています。」
「女の人が赤ちゃんをだいて、かさをさしています。」
「女の人がかさをさして、赤ちゃんを抱いています。」
と答える子どもに、次のような表現の仕方を教えます。
かさをさしている女の人が、赤ちゃんをだいています。
赤ちゃんをだいている女の人が、かさをさしています。」
この表現のし方を使って
女の人がかばんをもっているところまで子どもに見せます。
「赤ちゃんをだいて、かさをさしている女の人が、かばんをもっています。」
次に、女の子に声をかけているところまで子どもに見せます。
「赤ちゃんをだいて、かさをさしている女の人が、
「かばんよ」
と女の子をよんでいます。」
一度に見せたら、表現しにくい子どもがいます。
どこに視点を置いて、表現すればいいのかわからないのでしょうか。
場面絵カードには、情報がありすぎて、何から表現すればいいのかわからないのでし

よう。

場面絵カードを使い、かくしておく方法 - 一つずつ表現しながら、見せていく方法 - はそんな子どもに効果的です。

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

漂泊鳥から

学校のそばの池にこおりがはりました。

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

ことばだより No.58

ことばのもり 2004. 1.28

INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

スムーズに出てきた「お母さん」と言いにくそうに出てきた「お母さん」とは子どもの

思いが違うのだと、考えられます。

たとえば、スムーズに出てきた「お母さん」にはこんな場面が想像できます。

お母さんと久しぶりに1対1で話せる。

「きょうね、こんなことをしたよ」

「こんなのを見つけたよ」

とつながるのかもしれない。

今日の出来事を落ち着いて、ゆっくり話せるのかもしれない。

話しにくそうに出てきた「お母さん」には、こんな思いがあるのかもしれない。

お母さんは下の子の面倒を見ていて、忙しい。

お姉ちゃんの私がこんなことを話してもいいのかな。

でもお母さんと話したいな。

このことは話しておかないと

と思っているのかもしれない。

どちらのときも、子どもの思いを受け止めてあげることって大切ですね。

言語性を伸ばす指導

指導ではありませんが・・・。

ものの数え方が1年の国語の教科書に出てきます。

えんぴつを数えるときには、

1 ほん 2 ほん 3 ほん 4 ほん 5 ほん 6 ほん 7 ほん 8 ほん 9 ほん 10
ほん

実にややこしい。

1、6、8、10のときは半濁音になります。

2、4、5、7、9のときは清音のままです。

3のときは濁音になります。

漢字の「本」で書いてしまえば、このややこしさはなくなります。

しかし算数では、はやくから、「なんぼんですか？」という問題がでてきます。

子どもは「8ぼん」と答えてしまいやすいです。

園の送り迎えのときに、電信柱の数を数えたり、

空き瓶をごみに出すときに、手伝ってもらいながら数えたり、

散歩のときに、咲いている花を数えたり、

しながら覚えさせてあげてください。

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

漂泊鳥から

冷たい日が続いています。

あともう少しの我慢です。

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

ことばだより No.57

ことばのもり 2004. 1.2

INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

話すときには、理解していることばをつなげて表現しています。

自分の持っている表現力以上にながい文で話そうとすると、

ことばを捜しているうちに 話しにくさが出てくるときがあります。

話すための各器官が協調運動をして、話すことができます。

各器官の協調運動のスピードよりも話そうとするスピードが速い場合にも、

話しにくさが 出てくるときがあります。

身近な大人との関係でよかったのが、子どもの成長とともに、

知らない人とも話さないと いけない場面が出てきます。

今までにしたことのないことでも、しないといけないときがでてきます。

そんなときは緊張もするし、疲れもするでしょう。

それをうまくことばで表現できないのではないのでしょうか。

ある子はぐずって表現しているのかもしれない。

またある子は機嫌をわるくして、表現しているのかもしれない。

またある子は、話しにくくなることで、不安や疲れを表現しているのかもしれない。

緊張は、話すための器官に影響を与え、うまく協調運動ができなくさせてしまいます。

言語性を伸ばす指導

ひらがなの勉強も、ま行までできました。

みみ め くち はな くび て あし あたま などのからだの部位のなまえ
ができます。

絵カードと名前カードとひらがな文字カードを使い、対応させていきます。

1回目 顔の絵カード、からだの絵カードを子どもに見せる。

「ここはなんて言うかな？」 と指差し、聞いてみる。

答えが返ってきたら、名前カードを見せて、読んでみる。

子どもが、もう一度名前カードを見て、読む。

2回目 名前カードをばらばらにおいて、部位を指差してみる。

子どもが文字カードを選び、読む。

3回目 ひらがな文字をばらばらにおいて、部位と文字カードを指差してみる。

子どもが文字カードを見ながら、ひらがな文字を一字ずつとりだし、並べて、読む。

4回目 最後に部位を指差してみる。 子どもがひらがな文字を一字ずつとりだし、並べて読む。

2 語文だと あまい すいか つめたい あいすくりいむ(アイスクリーム) うまい もも

「 も 」を使うと たこも いかも うみに います。 みか(ん)も かきも くだものです。

みかかんも ももも だいすきな くだものです。 など多語文ができます。

___/

漂泊鳥から

雪が降りました。

冷たい冬がやってきました。

___/

=====
ことばだより No.56

ことばのもり 2004. 1.14

=====
INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

発音は理解することばがふえ、表現できることばがふえるにつれて、獲得されていきます。

また、大きな運動や細かい運動、協応運動ができるようになるとともに獲得されていきます。

発音の中でも、サ行とラ行は発達音と言われます。

この行の発音には舌先の細かい運動が必要です。

サ行は、サスセソの音とシ音とは、舌の位置がほんの少しちがうところで発音しています。

また息もカ行やタ行の発音のように強い息ではなく、やさしく出す息が必要です。

シャボン玉を大きくふくらますには、息を一気に出さないで、やさしくゆっくり出します。

ちょうど、このやさしい息が出せないと、サ行の音は発音できません。

そしてラ行は舌先を口の天井につけて弾けないと発音できません。

ですから、サ行とラ行の発音は一番最後に獲得されると言います。

時期は小学校の入学前後のころです。

言語性を伸ばす指導

3年の下の教科書に「がんばれ わたしのアリエル」という教材があります。

その中に「もうどう犬になる犬は、子犬のころ、パピーウォーカーという里親ボランティアの家に

10ヶ月ほどあずけられて、しつけをうけ、人間とのふれあい方をおぼえさせられる。」という文があります。

書いてある通りに質問するとしたら

「もうどう犬になる犬は、子犬のころ、なんという家に10ヶ月ほどあずけられますか」

「そこで何を受け、なにをおぼえさせられますか」

逆から問うとしたら

「パピーウォーカーと言う里親ボランティアの家に10ヶ月ほど預けられるのはだれですか」

となるのでしょうか。

もう一段レベルを上げると

「パピーウォーカーは、だれを預かり、何を覚えさせるのですか」 となるのでしょうか。

___/

漂泊鳥から

静かに3学期もスタートしました。

風邪を引いている時間はない。

家に帰れば、うがいと手洗いを

___/

ことばだより No.55

ことばのもり 2004. 1. 7

INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

幼稚園児が話しにくくなるのは 園の経験をいっぱい話そうとしているんです。

理解したことばを整理し、表現に使おうとしているんです。

いっぱい話すことがあるんだと受けとめて、ゆっくり聞いてあげることだと思います。初めての集団生活で、まわりの人の影響を受けているのではないのでしょうか？早く話す子もいれば、ゆっくり話す子もいるんだと思います。入園までは、大人相手に話していました。自分のペースで話していても、理解してもらえました。しかし集団の中には、いろいろな子がいます。その中で生活しているから、社会性を身につけ、ことばを増やしていきます。もしかしたら、話すスピードの遅い子早い子の影響を受けているのかもしれない。しかし、このマイナスの影響も乗り越えてほしいものですよね。何よりも、お母さんに園のことを聞いてもらえたという経験をつんでいくことで、話すことへの安心感が育ちます。安心感が育てば、お子さんの話すスピードも一定になっていくと思います。

言語性を伸ばす指導

一年の教科書にお正月の様子が絵で描かれています。外では子どもたちが「たこあげ」「こままわし」「ゆきうさぎ」「おしくらまんじゅう」をしています。ゆうびんやさんが「ねんがじょう」を届けてくれています。お正月らしい絵です。しかし、なぜか「はごいた」の「はねつき」はありません。そのかわりかどうかわかりませんが、「ラケット」でうちあう「バトミントン」らしい絵があります。家の中では「かきぞめ」「かるた」「すごろく」で遊んでいます。食卓の上に「じゅうばこ」があり、家族で「おせちりょうり」を食べています。「じゅうばこ」や「おせちりょうり」「かきぞめ」を知らない子も多いです。一年に何度も聞くことばではありませんから、覚えていないのでしょうか。ここで教えておきます。「おおみそか」「もちつき」「としこしそば」「じょやのかね」「はつもうで」「まつかざり」「おとしだま」などのことばも話しておきます。なぜ「はごいた」でする「はねつき」がないのだろう。

__ /
漂泊鳥から
一年のはじめですから、やっぱり、
あけまして おめでとうございます。
__ / __ /

ことば徒然
言語性を伸ばす指導

ことば徒然

ことばは約束事です。

りんごのことを「りんご」と言おうと約束しているんです。

しかし、幼児期の子どもは正しく発音できません。

誤って覚えていることもあります。

それで、「ご」だけを言って、「りんごがほしい」と表現する場合があります。

大人が、その子どものことばを理解して、対応することが大切です。

「そう、りんごが食べたいんだ。」

と答えてあげてください。

思いが伝わったことを、子どもに伝えることで、子どもはことばに関心をよせていきます。

りんごと子どもの目とお母さんの口元を直線で結んで、「りんご」と言ってあげてください。

そして少し模倣するのを待ってあげてください。

赤い皮をむいて、一緒に食べ、子どもの目を見て、笑顔で

「りんご おいしいね。」

と声をかけてあげてください。

そんな積み重ねが、子どものことばを育てていくように思います。

言語性を伸ばす指導

ひらがな文字を各行から勉強をはじめて、は行までくると、いろいろできます。

は行のひらがなを、連続させると

ははははは ひひひひひ ふふふふふ へへへへへ ほほほほほ

と笑い声になります。

母音と続けると

あっはっはっは いっひっひっひ うっふっふっふ えっへっへっへ おっほっほ
っほ

は行の連続とは少しちがう笑い声になります。

反対のことばで、

「ふかい あな」に対して「あさい あな」

せが「ひくい」に対してせが「たかい」

「ふとい あし」に対して「ほそい あし」

「は」「へ」をつかうことで

あなは ふかい。

いけは ふかい。

あしは ふとい。

あしは ほそい。

はなは あかい。

ふねは あおい。

「なにが どんなだ」という文ができます。

単語カードに書いて読みます。

読んだあと、

「はなは何色ですか」

「ふねは何色ですか」

と書いてある順番に問います。

「あかいのは何ですか」

「あおいのは何ですか」

と書いてあるのとは逆に問います。

こんな文もできます

おとこの こは えきへ いく。

おとこの こは いえに かえった。

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

漂泊鳥から

明日は大晦日。

あさってはお正月。

どうぞいい年をお迎えください。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

=====
ことばだより No.53

ことばのもり 2003.12.24

=====
INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

3歳代の子どもは、ことばを学習しています。

しかし、話す器官の発達が未熟なんです。

話そうとするスピードでは動いてはくれません。

わかることばも増えていきます。

しかし、それを使って表現するほどの力も育っていません。

また、自分でできることが増えていきます。

それまでお母さんが「・・・して」というと、その通りしていたのに、「いや」といい始

めます。

それで、子どもにやらせてみると、できないことが多いです。

お母さんの手助けを必要としています。

不安定な時期なんです。

この時期の子どもは、できることが増えていくんですが、できないことがたくさんあります。

言語性を伸ばす指導

あ行～な行のひらがなでこんなことができます。

ここまでひらがな文字を読んでくるとずいぶんことばがつながってきます。

たのしい うた

うたうと たのしい

すきな さかな

ちいさい さかなと おおきい さかな

「おおきい」「ちいさい」が弁別できるか確かめてみます。

同じものの絵カードを比べて「おおきい」「ちいさい」というように。

ちがうものの絵カードを並べて、イメージで弁別できるか確かめてみます。

ねっことねこ

猫の絵カードを見せて、「これは何？」と聞いてみます。

「ねこ」と答えたあと「っ」を見せて、猫の絵カードの下におきます。

「っ」がこの間に入ると、ちがうものになるよ。なんだろうね。

と聞いてみたら、クイズっぽくっていいかもしれません。

・～の

おとうとの なす

しかの つの

・～に～

ちいさな えきに いく

おおきな いえに いった

かいに いこう

時制の表現にもつなげそうです

・～のなかに

つくえの なか

・～のうえに

つくえの うえ

・～のした

つくえの した

位置を表すことばの理解に使いそうです。

机の上、下、中にりんごがおいてある絵カードを見せて、

りんごはどこにありますか？

と問い、絵に対応した文字カードを見せ読ますといい。

— / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — /

漂泊鳥から
クリスマスイブ。
いかがお過ごしですか。

1号を発行してから、1年になります。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

— / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — / — /

=====
ことばだより No.52

ことばのもり 2003.12.17
=====

INDEX

ことば徒然
言語性を伸ばす指導

ことば徒然

幼児期の話しにくさについて
だれもが通る道だと思ってください。
大体の子が、経験していますよ。
疲れているんだと思い、ゆっくり聞いてあげてください。
会話するときは、話し手と聞き手がいます。
聞き手の思いは、話し手に伝わります。
話し手の思いは、聞き手に伝わります。
お母さんに、話し手の子どもの思いが伝わっているように、子どもにも胸をいためて
おられるお母さんの思いは伝わっていると思います。

あなたの話は、お母さんに伝わっているよとやさしい笑顔でお子さんを見つめてあげ
て
ください。
いつも聞いているよと笑顔を返してあげてください。

言語性を伸ばす指導

ひらがな文字のあ行からた行でことばの勉強をします。
・ことばあつめから
ち、て、と、たこ、こたつ、とけい、けいと・・・
・「と」が出てくることで、ものを並べることができます。
たこと いか

おとうさんと おかあさん
たかい かきと かたい かき
あたたかい あさと あつい あさ
あつい いたと うすい いた
・反対のことはもできます。
ちいさい たき、て、いけ、とけい、と
おおきい たき(うつくしい たき)
ちかい えき
とおい えき
・舌の動きを確かめることもできます。
かたたたき
こけた おとうと
たいこ たたいて とことこ

— / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ /

漂泊鳥から

風が、冬の寒さを運んできました。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

— / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ / _ /

=====
ことばだより No.51

ことばのもり 2003.12.10
=====

INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

子どものエネルギーの源は、何か？

ものを目で追い、そのものに手をのばし、そのものをにぎり、そのものをもったまま
ふりはじめます。

ものへの興味や関心が、エネルギーの一つなのでしょう。

人見知りをし、いつも近くにいてくれる大人の後追いをはじめます。

守られていることで、エネルギーを溜めていきます。

大人のまねをし、近くにいる大人が対応する。

「自分でする」と主張をし、なかなかできないけれど、自分でやりきる。

大人がそれを見て「できたね」とほめる。

学びつづける中でも、エネルギーを補充していきます。

言語性を伸ばす指導

ひらがな文字を読めるように取り組むときに、行ごとに読めたあとに、列ごとに読むことを目当てにすることがあります。

あ列のひらがな文字を並べて、ことば集めをします。

一字では か、は、

二字では かさ、さか、かた、たか、たな、なた、はな、はら、わら、
かま、さら、かわ、

三字では、からだ、さらだ、

四字では、からから、ぱかぱか、

と並べて、読むように指導します。

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

漂泊鳥から

2学期もあともう少し。ラストスパート。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

=====
ことばだより No.50

ことばのもり 2003.12. 3
=====

INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

子どもは発達する力を秘めています。

幼児期には、ことばを学習していきます。

理解できることばをふやし、一語、二語、三語・・・で表現できるようになります。

幼児吃は、その過程の一時期にあらわれます。

大半の子どもはいつの間にか消えていきます。

しかし、いつまでも症状が消えない子がいます。

さらに、その子たちの中にも、話すことの安心感を育てることで吃音の症状を軽減できる場合もあります。

楽に話すことを経験することで吃音を改善できる場合もあります。

一方で、吃音が進展し、話すことへの恐れや緊張があらわれる場合があります。

吃音には、いろんなケースがあります。
その原因、その症状のあらわれ方や進展の仕方など個人差があります。

言語性を伸ばす指導

1年のこくご下の教科書に「くらべて せつめいしよう」という題材があります。
そのときに絵カードを使い、表現方法を学びます。
大小、長短、高低、多少関係を理解し、比較の表現を学びます。
共通点や似ているところを探し、表現方法を学びます。
ちがうところを探し、表現方法を学びます。

ぞうとありの絵カードをならべて
「ぞうは ありより おおきい。」
「ありは ぞうより ちいさい。」
「大きさを くらべると、大きいのは、ぞうの ほうです。」
「大きさを くらべると、小さいのは、ありの ほうです。」
子どもの筆箱にあるえんぴつや消しゴムを使い、背比べや大きさ比べなどもできそうです。

えんぴつとクレヨンの絵カードをならべて
「えんぴつも クレヨンも かくときに つかいます。」
「えんぴつと クレヨンは、どちらも かくものです。」
えんぴつで ノートに じを かき、クレヨンで がようしに えを かきます。」

— / — /

漂泊鳥から

去年の12月25日にmelma様にお世話になり

「ことばだより」の第1号を発行しました。

そして今回で50号です。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

— / — /

=====
ことばだより No.49

ことばのもり 2003.11.26
=====

INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

子どもは、発達とともに自分の世界、親との世界、友だちとの世界を形作っていきます。

始めはほとんど寝ていた赤ちゃんが、動くものに目を動かし、首を動かして追って行きます。

やがて手を動かしてつかみます。

はいはいをし、立ち、歩くことで自分の世界を広げていきます。

いつも身近にいてくれる大人を知り、人見知りが始まります。

その大人の後を追ひ、やりとりをし、関係を深めていきます。

こうして親との世界をつくります。

そして親との関係が深まることで、この次の友だちとの世界をつくっていきます。

親との世界でいっぱいエネルギーを溜めて、同年齢の子どもの世界に飛び込んでいきます

言語性を伸ばす指導

話しくさが出てきたら

園での出来事をあれもこれも話したいけれど、うまく表現できないでいるのかもしれませんが。

小さく限定して問うようにすると、どうでしょうか。

園で何があったの？

と問うと、子どもは、半日の出来事が頭に浮かんできます。

それをことばで表現するのは、難しいことでしょう。

しかし、

朝は、だれと遊んだの？

何をして遊んだの？

楽しかった？

小さく限定して問うことで、子どもは話しやすいかもしれません。

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

漂泊鳥から

寒くなりました。

足元から寒さを感じます。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

車の絵カードを見せて

「タイヤはいくつある？」

と問うことがあります。

車がイメージできていれば

「4つ」「4本」

と答えます。

しかし、

「2つ」「2本」

と見えるタイヤを数え、答える子がいます。

これは、イメージができていないか、見えるタイヤの数はいくつかと考えたかどちらかです。

「この向こう側にもタイヤは2本あるよ」

と、ことばによる指示で修正させます。

言語性を伸ばす指導

あ行からか行のひらがなでできることばを集めてみました。

・色の名前

あお、あか、き、

・名前のことば

か、き、こい、かき、かい、いか、きく、いえ、うお、きかい、かお

・時間のことば

あき、

・場所のことば

いけ、えき、

・動きのことば

いく、きく、うく、おく

・2語文

あかい いえ

あおい いえ

あかい かき

あおい かき

あかい かお

あおい かお

あかい こい

あかい きく
おおきい え、か、き、こ
おおきい かお
おおきい きく
おおきい えき
おおきい いけ
おおきい こい、うお
おおきい かい
おおきい いえ
おおきい かき
おおきい きかい

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／
漂泊鳥から
日が落ちるのが早くなりました。
いつもだいたい同じ時間に帰るのですが、ずいぶん暗くなっています。
ことばのもり 管理人 漂泊鳥
＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

=====
ことばだより No.47

ことばのもり 2003.11.12
=====

INDEX

ことば徒然
言語性を伸ばす指導

ことば徒然

WISC - ?の検査で言語性下位検査に〔理解〕という検査があります。

その中に

「あなたがもし友達のボールをなくしたとき、あなたはどうしますか」
と言う問題があります。

この問いに、

「なくしたことはない」

「友達のボールをなくしたことはない」

と答える子がいます。

これは今までの経験を答えていると考えられます。

こんな場合、もう一度同じことを問います。

「ボールをさがす」
「あやまる」
と言う答えが返ってくれば、概念で答えていると考えられます。

言語性を伸ばす指導

あ行「あ」「い」「う」「え」「お」とか行「か」「き」「く」「け」「こ」をあわせてことば集めをすると

名前のことばだと、

「え」「か」「き」「け」

「いえ」「かき」「かい」「きく」「いか」「いけ」「えき」「おけ」「こい」

「おかき」「くうき」「きかい」

「おけいこ」

動きのことばだと

「あう」「いく」「おく」「うく」「かう」「きく」「かく」

色のことばで

「あか」「あお」「き」

その他に

「おおきい」

2語の語連鎖を作る。

ひらがな文字を読めるように指導していきます。

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

漂泊鳥から

紅葉に朝日があたっている。

いつもの道、毎日歩いている道です。

鞆からカメラを取り出して、一枚撮りました。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

=====
ことばだより No.46

ことばのもり 2003.11.5

=====

INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

子どもは2・3歳くらいから絵本を読んでもらうのを楽しみにしています。
絵本の絵だけを見て、自分のことばで表現し、お母さんとやりとりをはじめます。
やがてお母さんが子どもに読み聞かせをします。
書きことばを耳にした子どもは、話の内容にひたっていきます。
それは、絵だけから自分のことばで表現していた以上のことをイメージできるからです。
このようにして、文字への関心を深めていきます。

大日本図書の「乳幼児のことば」を参考にしました。

言語性を伸ばす指導

45号の続きです。

4、問いに答えて、カードに書いて、対応する

- ・ 山の神様のお祭りはいつあるんですか？
 - ・ だれが見ることができるんですか？
 - ・ どんなお祭りとじさまは言っていますか？
- と問い、答えてから、カードに書きます。

そして、

「いつ」「だれが」「どんな」「なにを」「(カードを提示しながら)見ることができるんですか？」と問い、

子どもが書いたカードと対応させる。

5、問いに答えて、文章化する

4の問いに答えてから、一文ずつ書く。

たとえば、

山の神様のお祭りは、霜月二十日のばんにある。

勇気のある子だけが、見ることができる。

モチモチの木に灯がともる。

___/

漂泊鳥から
霜月に入りました。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

___/

=====
ことばだより No.45

ことばのもり 2003.10.29

=====

INDEX

ことば徒然 言語性の指導

ことば徒然

こうして書いていると、自分の仕事が少しずつまとまってきます。
うれしいものです。

この文字はいつごろから習得し始めるのだろうか

子どもがひらがな文字に関心を示すのは、個人差が大きいようです。

3歳ごろから関心を示す子もいますが、だいたいは4歳ぐらいから関心を示すよう
です。

はじめは自分の名前の文字に関心をもちはじめます。

そして道を歩いていると、自分の名前の文字を探し出します。

知らない文字を見れば「あそこになんて書いてあるの」と聞くようになります。

一文字でも読めると、ほめてもらえることで文字への関心は高まっていきます

90パーセントの子どもは、小学校入学までにひらがなを読めるようになっています。
そして小学校の6年間で、書きことばを通して学習し、経験したことを書きことばで
表現

できるようになります。

言語性の指導

3年下の国語に「モチモチの木」という題材が載っていました。

霜月二十日のぼんの場面で次のような問いを考えました。

1、書いてあるとおりに問う

- ・ 霜月二十日のうしみつに、何に灯がともるのですか？
- ・ それをだれが見たことがあるんですか？
- ・ それは、何と言うお祭りなんですか？
- ・ それを見ることができるのは、だれだけなんですか？

2、書いてある順番に問う

- ・ 霜月二十日のぼんに、何が起きるんですか？
- ・ じさまは、それをなんと言っていますか？
- ・ どんな子が見ることができるといっていますか？

3、書いてあるのとは逆に問う

- ・ 勇気のある子は、何を見ることができるといっていますか？
- ・ それを山の神様の祭りといっているのは、だれですか？
- ・ 山の神様のお祭りはいつあるんですか？

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

漂泊鳥から

風邪もやっとなおりそうです。

休みの日には、外に出かけて、光りを浴びようと思います。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

=====
ことばだより No.44

ことばのもり 2003.10.22
=====

INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

学習能力の中でもたいせつな力に「記憶力」があります。

視覚記憶、聴覚記憶、短期記憶、長期記憶、

作業記憶、手続き記憶、宣言的記憶、エピソード記憶、意味的記憶

これらをまとめて「記憶力」と言います。

教室では、ばらばらになっていることばを整理して、子どもに提示するようにしています。

一つのとまりを子どもに提示するようにしています。

意味的記憶を作りやすいように取り組んでいます。

言語性を伸ばす指導

たまごとニワトリの絵カードを見せます。

「たまごの次はなんと言うの？」

「ニワトリの前はなんと言うの？」

「ニワトリの子どもはなんと言うんだっけ？」

というんな問い方をします。

漂泊鳥から

風邪を引いてしまいました。

みなさんもうがい、手洗いをしましょう。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

ことば数が、どんどんふえていけば、それだけ表現できる物事が多くなります。自分の頭の中の引出しが整理され、いつでも必要なときに取り出せ、時と場に応じた表現ができます。

パソコンで言えば、一つひとつの文書がフォルダに整理されている。さらにフロッピーや CD に項目ごとに保存されている状態を言うのでしょうか。必要なときにすぐに探し出せ、画面上に出てくるのでしょうか。

言語発達が遅れているということは、一つひとつの文書はあっても、フォルダに整理されていないことを言うのでしょうか。

フォルダがあってもフロッピーや CD にばらばらに保存されていて、使いたいときに見当たらない状態を言うのでしょうか。

必要なときに見つけることができない状態とおなじですね。

言語性を伸ばす指導

たまご - おたまじゃくしの絵カードを見せて、

「この後どうなりますか？」

と問い、答えを待ちます。

答えが返ってこなければ、かえるの絵カードを見せて

「かえるになります」

と教えます。

「たまごからおたまじゃくし、おたまじゃくしからかえるになるよ」

ともう一度確認します。

「たまごとかえるの間は何と言うんだっけ？」

と問います。

漂泊鳥から
秋の季節は、何でもできそうに思ってしまいます。
つい無理をしがちです。
次の日に、疲れが残ってしまいます。
ことばのもり 管理人 漂泊鳥

=====
ことばだより No.42

ことばのもり 2003.10.8
=====

INDEX
ことば徒然
言語性を伸ばす指導

ことば徒然

もうそろそろ就学時健康診断があるかと思えます。
その是非も問題になっていますが、やはり必要に思えます。
子どもの健康について調べ、親御さんに伝えます。
入学までに治療するいい機会のように思えます。
また、一人ひとりの子どもの情報をつかんでおくことは、クラス分けや入学式からの学級指導にも役立つものです。

学級を持っていたころ、1学期の始業式の前に、健康診断票や歯科検診票、指導要録を見ながら、「この子は虫歯がない。」「一日も休んでいない。」「身長が高いんだ。」「健康に注意しないとイケないな。」と言った情報を書き留めていました。
一年間の学級経営をどうするか考えはじめていました。
来年、入学する年長幼児が、健康診断をしながら、前もって小学校の校舎の中を、まわるのも慣れるためにはいいと思えます。

また、面接で子どもの発音を調べ、誤りがあれば、すぐに対応できます。

言語性を伸ばす指導

以前の国語の1年の教科書に「じどう車 くらべ」という題材がありました。
その内容をヒントに考えてみました。
電化製品の絵カードを使って、そのはたらきを説明させます。
こんな質問をします。
どんなときに使いますか？
どのように使いますか？

どこにありますか？
どんな形をしていますか？
これがあることで、どんなことが助かっていますか？
もし、これがなくなれば、どんなことがこまりますか？

漂泊鳥から

やっと秋らしくなってきました。

すごしやすい季節です。

「ことばだより」の感想は「もりのポスト」にお寄せください。

<http://www3.kcn.ne.jp/~ntakashi/cgi-bin/postmail/postmail.html>

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

=====
ことばだより No.41

ことばのもり 2003.10.1

=====
INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

1年の教科書に「くらべて せつめいしよう」があります。
この前の教材で学習した「おなもみ」と「ななかまど」の種の同じところと違うところを説明しています。
つづけて「でんしゃ」と「ひこうき」を比べて、作文で表現しています。
そして、「いぬとねこ」「トラックとバス」を比べてみようと思ひかけています。
WISC - ?の類似という言語性の下位検査と同じです。
「タイヤとボール」「ねことねずみ」のおなじところは？と問います。
求められるのは、形や色ではなく上位概念です。

言語性を伸ばす指導

1年の教科書に「だいじな たまご」という題材が載っています。
それをまねして、「ためです」作文を書いてみようと思います。
男の子が寝込んでいる絵カードを見せて、
「男の子がどうしていますか？」「ねています。」

「なぜですか?」「かぜをひいたためです」
「どうして頭を冷やしているんですか?」「ねつをさげるためです。」
とやりとりしながら、「だいじな たまご」風に作文します。

漂泊鳥から
運動会の練習は、夏のような天気でした。
でも少しずつ秋の気配が・・・。
「ことばだより」の感想は「もりの掲示板」にお寄せください。
<http://www3.kcn.ne.jp/~ntakashi/cgi-bin/yybbs/yybbs.cgi>
ことばのもり 管理人 漂泊鳥

=====
ことばだより No.40

ことばのもり 2003.9.24

=====
INDEX

ことば徒然
言語性を伸ばす指導

ことば徒然

人は、自分が表現したことを受け止められると、うれしいものです。
子どもの場合も、同じようにうれしいし、この人ならといった安心感も育ちます。

この安心感が新しいことにも取り組んでいこうかな、一度やってみようかなという気をおこさせます。

しかし、子どもの周りにいる大人がいつもいつも子どもの表現に答えられるわけではないでしょう。

兄弟もいます。

家族もいます。

家事や仕事もあるでしょう。

そんなときは、子どもと1対1で過ごす時間を決めて、その限られた時間に、しっかり、子どもの表現に答えることです。

家族で食事をするとき、子どもがねるとき、子どもと過ごせる時間に子どもの話しに耳を傾け、答えることです。

子どもは、欲求を満たされることで、安心感をもち、それをエネルギーとして、子どもは自立にむかうことができます

言語性を伸ばす指導

皮をむくようにして、口に持っていきながら「(みかん)を たべる。」
先生がみかんを食べています。ぼくも食べたいとき「ぼくも (みかん)を たべたい。」

好きな食べ物を言うとき「ぼくは (みかん)が すきです。」

比べると「りんごよりもみかんが好きです。」

好きな食べ物がたくさんあって、「ぼくは みかんも すきです。」

その様子をみて「おかあさんが (みかん)を たべています。」

たくさんの食べ物の中で「これが ぼくの すきな (みかん)です。」

きのうの昼食の後「ぼくは すきな (みかん)を たべました。」

食べている理由をつけて「ぼくは のどが かわいたので みかんを たべました。」

のどが渴いている弟に「ぼくは すきな (みかん)を おとうとに あげました。」

いろいろな表現方法をリピートしてもらいます。

短期の記憶ができることを願ってリピートしてもらいます。

一度やったから、何回か指導したからと言って、いつでもどこでも正しく使えるとは思っていません。

聴覚的な刺激になればと思い、リピートしてもらいます。

漂泊鳥から

やっと涼しくなってきました。

「ことばだより」の感想は「もりの掲示板」にお寄せください。

=====
ことばだより 第 39 号

ことばのもり 2003.9.17

=====
INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

子どもと母親のこんな光景を見たことがあります。

子どもは表情や手の動きで「それがほしい」「それは食べたくない」といった意図と情動を表現しています。

母親は子どもの表情や手の動きから子どもの意図や情動を読み取り、行動していきます。

小さい子どもさんを連れのお母さんです。

お母さんが子どもに、

「これがほしいの？」とお皿をとっては

子どもに確かめています。

子どもは、その皿を見て、

「うーん」

とおこった顔を見せたり、笑顔を見せたりしています。

手をばたつかせたり、伸ばしたりしています。

ことばをまだ話せない子どもが顔の表情で、手で

「お母さん、それは食べたくないよ」「それを食べたいよ」と

話しているようでした。

このような母親と子どもとの意図や情動の共有が、子どもが親のことばを理解する基盤になるのです。

言語性を伸ばす指導

車の絵カードを見せて

「タイヤはいくつある？」

と問います。

絵カードに描かれているタイヤの数を答える子がいます。

「本当はいくつ？」

ともう一度問います。

本当の車をイメージできていないと答えられません。

漂泊鳥から

もうすぐ運動会です。

ことばだより 第 38 号

ことばのもり 2003.9.10

INDEX

ことば徒然

ことば徒然

ホームに乳母車を押してくるおばあさんとお孫さんがいました。

その子は、1才くらいでしょうか？

電車が近づいてくるのをじっと見つめていました。

おばあさんは、しきりに

「かんかんかん。」

「かんかんかんにのるよ。」

「いいね。」

と話し掛けています。

その子は駅を通り過ぎ、遠のいていく電車をじっと見て、手をうっていました。

おばあさんは

「かんかんかんだね。」

「いったね。」

と声をかけています。
待っているホームにも電車がやってきました。
子どもがさっきより大きな声で
「かんかんかん」
と言いました。
通過していく電車の風を感じたのか、声をあげて子どもは喜んでいました。
そのとき、おばあさんは
「びゅーんだね」
「はやいね。」と声をかけています。
電車に乗り、座席に座ると その子はおばあさんに抱かれて、隣にすわりに来まし
た。
おばあさんが、その子の靴を脱がせ、すわらせました。
反対側を走る電車を見ては
「かんかんかん」
と言っています。
おばあさんも
「かんかんかん」
「かんかんかん、はやいね。」
「でんしゃ、いっぱいね。」
と子どもさんのまねをしながら、ことばがけをされていました。
「共有していることが多いな」と思いました。
その子が何を見ているのか？
何を待っているのか？
何を楽しみにしているのか？が
おばあさんにはわかったのでしょうか。
その気持ちにおばあさんがことばがけをしていました。
子どものことばを使って、・・・。
子どもが見ているものを見て、子どもが感じていることを感じる。
そのときに出てくる子どものことばを大人が模倣する。
そして大人がもう一つ新しいことばを入れて話す。
そのことばを子どもが模倣するまでくりかえす。ここからことばが育っていく。

漂泊鳥から
残暑が厳しいですね。

=====
ことばだより 第 37 号

ことばのもり 2003.9.3

=====
INDEX
ことば徒然
言語性を伸ばす指導

ことば徒然

連発、引き伸ばし、難発の症状が現れる頻度はどれくらいだったら吃音というのだろうか。

それらの症状が、100語中10回以上でてきたら吃音というのか、それとも3回以上なのか。

10回と3回では、ぜんぜんちがうように思うが。

3回くらいなら、日常生活の中でたまに経験することもある。

10回以上でるときなのか。

他の同年齢の子どもとくらべて、目立つ場合に吃音というのか。

目立つというのはどれだけ症状がでれば目立つのか。

3回くらいでは目立つとはいえないだろう。

確かに、話をしている1割以上出れば、どうしても目立ってくるだろう。

それとも本人の自覚があれば、吃音というのか。

2～4歳台にあらわれる幼児吃は成長とともに大半は消えていく。

彼らの非流暢性は正常な範囲だったと言える。

3回なら、非流暢性は正常な範囲にあると言えるだろう。

そしてあるものは、幼児吃が消えないのでこっていく。

幼稚園年長そして小学1年生2年生と過ぎたころに自覚が始まるといいます。

吃音歴が長くなればなるほど、内面的な問題は深刻化するといわれています。

自覚するまで吃音といわないのなら、吃音が進展してしまう。

適切な指導の時期をのがすことにもなる。

確かに何もしないで消えていく場合もあるが・・・。

なにもできないのか。

言語性を伸ばす指導

りんごの絵カードを机の上において、

「りんごはどこにありますか」

答えを待ちます。

答えが返ってこなければ、

「りんごは机の上にあります」

と言って、リピートさせます。

次にはりんごの絵カードを机の下に置いたり、筆箱の左側に置いたりして、表現させます。

こうして、位置を表すことばの習得を図ります

漂泊鳥から

2学期がはじまりました。

残暑厳しいですが、スタートダッシュ。

=====

INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導 絵カードを使って

ことば徒然

連発、引き伸ばし、難発の症状が現れる頻度はどれくらいだったら吃音というのだろうか。

それらの症状が、100語中10回以上でてきたら吃音というのか、それとも3回以上なのか。

10回と3回では、ぜんぜんちがうように思うが。

3回くらいなら、日常の生活の中でたまに経験することもある。

10回以上でるときなのか。

他の同年齢の子どもとくらべて、目立つ場合に吃音というのか。

目立つというのはどれだけ症状がでれば目立つのか。

3回くらいでは目立つとはいえないだろう。

確かに、話をしていて1割以上出れば、どうしても目立ってくるだろう。

それとも本人の自覚があれば、吃音というのか。

2～4歳台にあらわれる幼児吃は成長とともに大半は消えていく。

彼らの非流暢性は正常な範囲だったと言える。

3回なら、非流暢性は正常な範囲にあると言えるだろう。

そしてあるものは、幼児吃が消えないのでこっていく。

幼稚園年長そして小学1年生2年生と過ぎたころに自覚が始まるといいます。

吃音歴が長くなればなるほど、内面的な問題は深刻化するといわれています。>

自覚するまで吃音といわないのなら、吃音が進展してしまう。

適切な指導の時期をのがすことにもなる。

確かに何もしないで消えていく場合もあるが・・・。

なにもできないのか。

言語性を伸ばす指導 絵カードを使って

その5

パンダの絵カードを見て、リピートさせます。

「これは パンダです。」

「これは パンダという どうぶつです。」

「これは ささのはを たべる パンダという どうぶつです。」

「これは だいすきな ささのはを たべる パンダという どうぶつです。」

短期記憶をし、自分で表現する力を確認しています。

漂泊鳥から

INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導 絵カードを使って

ことば徒然

「吃音者には過去と未来だけがある。吃音にまつわる不快な記憶と発話への懸念を捨てさせ、今、この時点で吃音にどう対処すべきか、その方法を吃音児・者に教えなければならない。」

彼ら（今まで指導してきた吃音の子）の吃音の症状の変動性は大きく、自由な会話では吃音の症状はみられず、突然、難発がでてきたりします。

さらに吃音の症状の進行はあまり見られず、吃音の進展段階を評価すれば、軽いものです。

しかし吃音歴が長くなればなるほど、吃音を意識した症状はふえていきます。

話をしていて、突然、難発がでてきて驚きます。

それまでの会話で本人は「できそうな気がする」「でたらいやだな」「どうしよう」と話していることを心配していたと思います。

その思いが現実になることで、不快な記憶として残っていきます。

それによって、マイナス思考の回路がはたらき、吃音の進行に影響するマイナス要因はより深刻化し、吃音の体験は増えていく。

言語性を伸ばす指導 絵カードを使って

その4、

この車のタイヤは、いくつありますか？

片側から見て、車が描いてあります。

タイヤは二つだけ見えています。

反対側にも二つありますから、正しくは四つです

このバスのタイヤはいくつありますか？

絵カードで見えるタイヤの数は、三つです。

しかし反対側にもありますから、正しくは六つです。

絵カードには視点があります。

視点の移動ができるということのも確認しなければいけない大切な課題です。

漂泊鳥から

夏休みもあと10日。

やり残していることを一つしあげよう。

INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導 絵カードを使って

ことば徒然

五つの「聞く」力を子どもがうまく使えていないのは、なぜでしょう
食欲や睡眠といった生理的な欲求、
安心して集団生活を送るといった安全への欲求、
自分の役割や責任を果たし大事にされたい、認められたいといった所属や
愛情の欲求、

尊重の欲求が満たされていないというのも理由の一つではないでしょうか。
このような基本的欲求が十分満たされて初めて、知ることと理解すること
の欲求が子どもに生まれてくるといいます。

子どもの欲求が十分満たされていないことが、子どもを精神的に不安定な
状態を招いているのではないのでしょうか？

この不安が子どもが持っている「聞く」力をうまく使えなくしているの
ではないのでしょうか。

絵カードを使って

その3

2本の鉛筆が描いてある絵カードを見せて、
「どちらが 長いですか？」と問い指さしをさせます。

「これは長い鉛筆です。」とリピートさせて、

「それでは、こっちはなんていうのかな？」と問います。

「どちらが 大きいですか？」

「どっちの足が 多いですか？」

「どっちが 強いですか？」

比較語（「ながい」と「みじかい」、「おおきい」と「ちいさい」、「おおい」
と「すくない」、「つよい」と

「よわい」）を正しく理解しているか確かめます。

漂泊鳥から

夏休み前半もおわりました。

INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導 絵カードを使って

ことば徒然

ところが、子どもの1日の生活をふりかえってみると朝、登校中に「おはよう」と声をかけたとき、眠そうな目をこちらに向けます。

しかし、「おはよう」と返ってこない子どもがいます。

目では反応していますが、年齢相応のコミュニケーションが成立していません。

この子にとって「おはよう」というあいさつは、ただ音として「聞こえる」ということなのでしょう。

前の日、夜遅くまでおきていたのでしょうか？

長い休みが終わり、園や学校が始まったばかりで、集団生活のリズムが取り戻せないのでしょうか？

寝坊して朝ご飯を食べないで、出てきたのでしょうか？

家を出るとき、おうちの人におこられたのでしょうか？

出さないといけない宿題ができなかったのでしょうか？

友だちとうまくいっていないのでしょうか？

授業中、先生は子どもにいくつかの指示を出しますが、指示どおりの行動ができない子がいます。

指示が多すぎて、おぼえられなかったのでしょうか？

指示を理解できなかなのでしょうか？

休み時間に友だちとけんかでもしたのでしょうか？

授業の内容がわからなくて、先生の指示を聞きもらしたのでしょうか？

絵カードを使って

その2

かえる、ウサギ、きつねの絵カードを用意し、並べます。

「お話しするから、よく聞いてね。」

「かえるが、とんだ。」

みつけた、みつけた。

あかい はな。」(大阪書籍の1年上国語教科書の「みんな とんだ」から)

「お話しに出てきた動物はどれですか？」

「何をみつけたのかな？」と問います。

「かえるが どうして、あかい はなを みつけたのかな？」

始めの問いに答えるのに、ことばといっしょに、絵カードの支援がありません。

次の問いに答えるのに、ことばの支援しかありません。
短期記憶、集中力を確かめます。

漂泊鳥から
少しだけ、夏らしくなってきました。
「今年は、これぐらいにしといたろ。」

=====
ことばだより No.32

ことばのもり 2003.7.30
=====

INDEX

ことば徒然
言語性を伸ばす指導 絵カードを使って

ことば徒然

聞くという力は、次の五つに分けられます。

「聞こえる」「聞く」「聴く」「傾聴」「訊く」です。

「聞こえる」は、聞く意志がなくて、ただ耳に入ってくること

「聞く」は、聞く意志をもって聞くこと

「聴く」は、聞く意志をもち、注意して聞くこと

「傾聴」は、聞く意志をもち、注意を集中して聞くこと

「訊く」は、自分の聞きたい意志を相手にまで及ぼし、答えを求めて積極的に聞き出すこと
という意味です。

この五つの聞くは発達とともに獲得されていきます。

新生児期の子どもは、大きな音に反応し、母子間でコミュニケーションが成立していることから、「聞く」というレベルに達しているといわれます。

乳幼児期に「聴く」「傾聴」「訊く」を獲得していくといわれます。

「聴く」というレベルでは、母親の声が聞こえてくると、探し求める行動をします。

「傾聴」というレベルでは、ことばの模倣をしたり、ことばによる指示に従い行動をします。

そして、「訊く」というレベルでは、「これ、なあに？」と質問する行動をします。

やがて子どもは「聞く」という力を基礎にして、「話す」「書く」といった行動を生み出します。

聞くことで、ことばを発達させていくのです。

また、人は、この五つの聞く力を周囲の状況や、必要に応じてうまく使い分けて生活していきます。

(学苑社の聴覚障害の診断と指導を参考にまとめました。)

絵カードを使って

教育相談に年長幼児が来室します。

検査で絵カードを使い、次のようなことを確認していきます。

その1

りんごとイチゴとみかんの絵カードを3枚並べます。

「この中で一番好きなのはどれですか？」と問い、子どもが選びます。

選んだ絵カードを取って、2枚の絵カードを残しておきます。

「このどちらが好きですか？」と問います。

選んだ絵カードと一番好きな絵カードを並べて、

「どちらが好きですか？」と問います。

順位付けが正しくできているかを確認めます。

乗り物が好きな子どもには、電車、車、自転車の絵カードでもいいと思います。

漂泊鳥から

もう7月もおわりです。

=====
ことばだより No.31

ことばのもり 2003.7.23
=====

INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

電車の中でこんな子どもと母親を見ました。

母親は子どもと視線を合わせ、子どものことばを繰り返し、助詞をつけたし、さらにそのスピードを説明していました。

子どもが反対の路線を走る電車を見ていました。

すると、

「でんしゃ、いった」と指さしながら、

お母さんの方を見ました。

お母さんは、

「電車が行ったね。はやいね。」

と答えながら、子どもの方を見ていました。

子どもはまたそれに答えるように、

何回か同じことをくりかえして見ました。

子どものことばに共感することで、母親と子どもの間に安心感が育ち、子どものことばがふえていきます。

言語性を伸ばす指導

男の子が転んでいる絵カードと傷テープを貼っている絵カードを用意します。

1枚ずつ、お話ししてもらいます。

その後、一つの文にしてと指示します。

「転んでけがをしたので、傷テープを貼りました。」

「転んでけがをしたから、傷テープを貼りました。」

このあと、ドアを空けて外に出かける絵カードや掃除をしている絵カードを使い、理由を想像して文で表現します。

漂泊鳥から

夏休みです。

子どものことばを育てるいい機会です。

=====
ことばだより No.30

ことばのもり 2003.7.16

=====
INDEX

ことば徒然 子どもの欲求

ことば徒然 子どもの欲求

生理的欲求

乳児は、食べたい、眠りたい、休みたいなど生命活動に必要な欲求を泣くことで表現します。

母親はその表現に答えて、ほほえみながら、ミルクを与え、やさしくダッコし、あやします。

母親のこうした行動により、乳児は母親への愛着を育てていきます。

安全欲求、愛情の欲求

生後6、7ヶ月もすると、母親以外の人に抱かれると、不満な顔をしたり泣き出したりします。

母親以外の人を区別し、嫌います

このことは、母親への愛着が育ってきている証拠なんです。

やがて、時間がたつと、母親の周りにはいる父親、祖母、祖父も愛着の対象となります。

家族の中で、信頼の輪を広げていきます。

成就の欲求、独立の欲求

また母親への愛着が育つと、母親の行動を模倣しはじめ、見慣れた人の身振りを模倣し積極的なかわりをもとうとします。

自分で食事をしよう、衣服をぬごう、着ようとしはじめます。

何度も、くり返し、練習します。

大人が手伝おうとすれば、「いや」といって抵抗もします。

一人でやらせると、失敗することも多いです。
しかし、一人でやりたいと練習し、一つひとつのことを獲得していきます。
承認の欲求
こうして、基本的生活習慣が身についてくると、身の回りのことを自分で処理できるようになります。
「自分にもこれだけのことができるんだ」という自信が生まれてきます。
親の指示に「いやだ」「できない」と逆らうことも多くなってきます。
自分を意識し、自己主張しているのです。
夏休みです。
一日に一回、今日は子どもがどんな欲求を表現したか、ふりかえってみてください。

漂泊鳥から
30号まで続けることができました。
ご購入いただき、ありがとうございます。

=====
ことばだより No.29

ことばのもり 2003.7.9
=====

INDEX

ことば徒然 ことばの教室で
発音の誤りへの指導

ことば徒然 ことばの教室で

認知能力にばらつきがあると、小学校の生活では、学習に問題をもたらします。
たとえば、話はいっぱいするが、先生の指示を理解できない、
1対1で言えば分かるが、集団に対して言えば理解できない、
テストをすれば理解していることが分かるが、授業中、関係のないことをしている、

落ち着きがなく、授業中なのに席を離れてしまう、
国語はできるが算数はいやがり、理解していない、
ひらがなや漢字は読めるが、書けない、
などです。

これらの問題を軽減、改善するには、長期の取り組みが必要です。

仮説を立て、指導し、1学期、1年後に評価し、取り組みつづけます。

この取り組みで、言語性の低さが改善し、ことばの教室の指導に頼る必要がなくなれば指導を終了しています。

発音の誤りへの指導

長期間誤った発音でいた場合や、
ある行の一音だけが誤っていたり、ひずんでいる場合、

改善するまで時間がかかることが多いです。
このような子どもには、次のような指導もします。
他者の発音を聞き分けさせます。
単音から連続音、無意味連続音で正しい発音かそうでないかを聞き分けさせます。
単音で出し分けている発音を録音し、そのテープを聞いて、聞き分けをさせます。
単音から連続音、無意味連続音で正しい発音かそうでないかを聞き分けさせます。
何番目の発音が誤っていたか？聞き分けさせます。
自分の発音を聞きとめて、今の発音は正しかったか、誤っていたか確認できるようにしていきます。
誤っているときには言いなおしをできるように指導していきます。

漂泊鳥から
つばめのひなが飛ぶ練習をしています。
巣に戻ってきては、飛び出していきます。

=====
ことばだより No.28

ことばのもり 2003.7.2

=====
INDEX

ことば徒然 発音の誤りに
言語性を伸ばす指導 絵カードをならべて

ことば徒然 発音の誤りに

単音で出れば、連続音、無意味連続音が正しく発音できるように取り組みます。
子どもへの励ましと子どもをあきさせない工夫が必要です。
子どもも意識して発音していますから、ずいぶん疲れます。
ときには休んでみたり、課題は同じでもパターンを代えて子どもに提示していきます。
そして、ことばや文で発音できるように取り組んでいきます。
このときも、正しい発音のパターンを意識しないと、ついついそれまでの誤った発音がでてきてしまいます。
大切になってくるのが、自分の発音が正しいのか、誤っているのかを判定できる耳です。
判定できる耳が育っていれば、誤った発音をしても、自分で訂正することができます。
最終段階の会話レベルの発音を確かめ、日常生活でチェックする時間を少しずつ長くしていきます。
誤った発音のパターンを正しい発音のパターンに変える必要があります。
自分の話しのスピードでも、新しい発音の運動パターンができないと何にもなりません。
だから、誤った発音を改善するには、ある程度の時間が必要なんです。

言語性を伸ばす指導 絵カードをならべて

その3 絵カードを見せて、お話を作り、モデルを示しながら、想起させる、模倣させる。

遠足が終わったところに

遠足に行く子ども、お弁当、水筒、おやつ絵カードを一枚ずつ見せて、文を作ります。

えんそくにいきます。

おべんとうをもっていきます。

すいとうをもっていきます。

おやつをもっていきます。

バスでいきます。

どうぶつえんにいきます。

どうぶつえんには、ぞうがいます。

.....

と文を書きます。

そのあとに

「・・・君は遠足に何を持っていったの？」

「・・・君は何に乗っていったの？どこに行ったの？」

「そこに、なにがあったの？なにがいたの？」

と聞いて、返事を待ちます。

書いた文がありますから、返事をしやすくなります。

漂泊鳥から

かいつぶりの浮き巣で、ひながかえりました。

1羽のひなが、水にはいれば、みんなが水にはいっています。

=====
ことばだより No.27

ことばのもり 2003.6.25

=====
INDEX

ことば徒然 問いに対応した答え方

言語性を伸ばす指導 教科書を使って

ことば徒然 問いに対応した答え方

聞き取りの弱い子どもに、一音を聞き取り、答えることをねらいに取り組みます。

場面絵カードで質問し、

はじめは場所を答えさせます。

次は「で あそびます。」「へ いきます。」「に おきます。」と書いた単語カードも見せて、問います。

子どもは問いに対応した単語カードを選び、場所をつけて答えます。

そして「で」「へ」「に」と書いた文字カードを見せて、問います。

子どもは問いに対応した文字カードを選び、場所とどうするのかをつけて答えます。

念のために、「あそびます」「いきます」「おきます」と書いた単語カードを見せて、問います。

子どもは問いに対応した単語カードを選び、場所と「で」「へ」「に」をつけて答えます。

言語性を伸ばす指導 教科書を使って

1年こくご上の教科書に「どうぞのいす」がのっています。

ここでは、文のたし算が勉強できます。

「ろばさんは いすに かごを おろしました。」

「(ろばさんは)ねてしまいました。」

この二つの文をたして、教科書には

「ろばさんは いすに かごを おろして、ねてしまいました。」

と書かれています。

また「(くまさんは)はなを かかえました。」

「(くまさんは)かわりに みつを おいて きました。」

この二つの文をたして、教科書には

「(くまさんは)はなを かかえると、かわりに みつを おいて きました。」

と書かれています。

このことを話した後、

文のたし算を子どもにさせます。

給食を配っている絵カードを見せて、文を作ります。

そして、給食を食べている絵カードを見せて、文を作ります。

つぎに文のたし算です。

「きゅうしょくを みんなに くばって、たべました。」

「きゅうしょくを みんなに くばって、いただきますを しました。」

こんな文ができました。

漂泊鳥から

図工室前のツバメの巣から、ひなが顔を出しています。

はじめは、下を歩く足音だけで顔を出し、鳴いていました。

最近は、親鳥の羽音、鳴き声を聞き分けているのか、それとも寝ているのか、

足音には反応しません。

「ことばだより」の感想は「もりの掲示板」にお寄せください。

<http://www3.kcn.ne.jp/~ntakashi/cgi-bin/yybbs/yybbs.cgi>

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

=====
ことばだより No.26

ことばのもり 2003.6.18
=====

INDEX

ことば徒然 問いに対応した答え方
言語性を伸ばす指導 場面絵カードを使って

ことば徒然 問いに対応した答え方

～で遊びます。このときの「で」は場所を表します。
～へ行きます。このときの「へ」は方向、方角をあらわします
～に置きます。このときの「に」は場所、方向を表します。
ややこしいのが、「へ」と「に」です。
「～に行きます。」「～へ置きます。」と会話では使っています。
きっと、使い分けていたことがあったのでしょう。
教室では、次のことを教えます。
どこで遊びますか？～で遊びます。
どこへ行きますか？～へ行きます。
どこに置きますか？～に置きます。
それぞれの問いに、対応した答え方をすよう教えます。

言語性を伸ばす指導 場面絵カードを使って

食事をしている絵カードと歯磨きをしている絵カードを見せます。
「何をしていますか？」
と問います。
「みんなで ゆうはんを たべています。」
「はを みがいて います。」
「～と」「～て」「のあとに」「そして」「そのあと」
などの、つなぐことばを教えます。
つなぐことばを使って、文を作ります。

「みんなで ゆうはんを たべています。そのあと、はを みがきます。」

漂泊鳥から

ツバメの飛び方がうまくなったように思いのは
自分だけでしょうか？

「ことばだより」の感想は「もりの掲示板」にお寄せください。

<http://www3.kcn.ne.jp/~ntakashi/cgi-bin/yybbs/yybbs.cgi>

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

=====
ことばだより No.25

ことばのもり 2003.6.11
=====

INDEX

ことば徒然 集中時間の短い子に
指導で

ことば徒然 集中時間の短い子に

その4 課題すごろくをつかって

10個のオセロのこまを並べておきます。

「きょうはこの数だけ、勉強します。」

ひとつ終わるごとに、こまを裏返していきます。

全部裏返せれば、その時間の指導を終わります。

指導で

発音の練習にことばの教室に通う幼児の場合、集中時間はそれほど長くはありません。

(あたりまえのことですが・・・)

指導中に「もう幼稚園に行きたい」と言われたこともあります。

発音の練習は嫌なものです。

その子の周りには、発音の練習なんかなくても、正しく言える子がいます。

それなのになぜ自分だけが・・・とっていてあたりまえです。

4の方法は、発音の誤りで2次的な問題がおこる前に、何とか改善するための方法です。

練習を終えるごとにすぐろくのこまをすすめていきます。

あがりのところにいけば、その日の嫌な練習もおわりです。

漂泊鳥から

朝と昼の温度差で、体の調子をわるくしてしまいそうです。

今週は、雨の日が多くなりそうです。

「ことばだより」の感想は「もりの掲示板」にお寄せください。

<http://www3.kcn.ne.jp/~ntakashi/cgi-bin/yybbs/yybbs.cgi>

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

=====
ことばだより No.24

ことばのもり 2003.6.4

=====
INDEX

ことば徒然 集中時間の短い子に
指導で

ことば徒然 集中時間の短い子に

その3 課題メモをつかって

課題を箇条書きに書いたメモを提示します。

「きょうは、この勉強をします。」

課題の一つが終われば、子どもが線を引き、チェックします。

メモに書いてある課題全部にチェックが入れば、その時間の指導を終わります。

指導で

発音に誤りのあるこんな子どもが通っていました。

集中時間が短く、動作性より言語性の能力が高い子どもです。

視覚認知力が低く、ひらがなの習得に時間がかかりました。

漢字も一画ずつ、言語化して習得していきました。

ある学年から、その子の指導をするようになりました。

本好きで話し出すと面白いとも言います。
しかし、書くのに時間がかかり、話をまとめきれないことから作文を嫌がっていました。

1時間の課題を聴写させることから取り組みました。
「国語からするよ」といえば「こくご」と書いていました。
「ことばの勉強でこの絵カードのお話しをして」といえば「絵カードの話し」と書いてから、お話しをするようにしていました。

また、1時間の指導でわかったことを書かせました。
順番を表すつなぎ言葉をつかうこと
会話文だけで書くこと
一文を短く書くこと
などを指導していきました。

この子への指導を終えたころは、作文を嫌がらなくなっていました。

漂泊鳥から
この季節に、台風が上陸。
被害はありませんでしたか？
「ことばだより」の感想は「もりの掲示板」にお寄せください。
<http://www3.kcn.ne.jp/~ntakashi/cgi-bin/yybbs/yybbs.cgi>
ことばのもり 管理人 漂泊鳥

=====
ことばだより No.23

ことばのもり 2003.5.28

=====

INDEX

ことば徒然 集中時間の短い子に
言語性を伸ばす指導 2枚の絵カードを使って

ことば徒然 集中時間の短い子に

その2 課題カードをつかって

「ことば」「かず」「こくご」「さんすう」「国語」「算数」などと書いた課題カードをはじめに提示する。

「きょうは、これだけ勉強をします。」
課題のひとつが終われば、そのカードをしまう。
課題カードがなくなれば、その時間の指導を終わる。

この方法だと、1の方法と反対に何をするのかはわかりませんが、どれだけするのかはわかりません。

1、2の方法とも問題はあります。
ただ、学習の仕方は子どもによってパターン化していますから、継続して取り組んでいくことで、1時間の指導にも集中するようになっていきます。

言語性を伸ばす指導 2枚の絵カードを使って

[きょうは さむいです。] [エアコンをつけました。]とそれぞれの文を書いたカードを見せて読みます。

そのあと、

[けれども] [だから]
とつなくことばを出します。

「どちらのことばでつなくかな？」と問います。

正しいことばを選んだら、

「そうです。寒いから、あたたまりたいよね。だからエアコンをつけるよね。」

「今日は寒いから、エアコンをつけました。と言うのと同じ意味だよ。」

と説明します。

そして、

「[きょうは さむいです。] [けれども]とつないたら、[エアコンを]どうしているのかな？」

と問います。

補助的に

「寒くて、あたたまりたい。けれども。がまんしてエアコンをどうしているのかな？」

「[けれども]は、これから反対のことを話すよ。前の文から予想できるのとは反対のことを話すという印です。」

と説明して、考えさせます。

「今日は寒いけれど、エアコンをつけません。と言うのと同じ意味だよ」

二つの文を読み比べます。

漂泊鳥から

最近、疲れがどうもとれにくくなりました。

これは歳のせいなのでしょうが？

「ことばだより」の感想は「もりの掲示板」にお寄せください。

<http://www3.kcn.ne.jp/~ntakashi/cgi-bin/yybbs/yybbs.cgi>

INDEX

ことば徒然 集中時間の短い子に
言語性を伸ばす指導 2枚の絵カードを使って

ことば徒然 集中時間の短い子に

その2 課題カードをつかって

「ことば」「かず」「こくご」「さんすう」「国語」「算数」などと書いた課題カードをはじめに提示する。

「きょうは、これだけ勉強をします。」

課題のひとつが終われば、そのカードをしまう。

課題カードがなくなれば、その時間の指導を終わる。

この方法だと、1の方法と反対に何をするのはわかりますが、どれだけするのがわかりません。

1、2の方法とも問題はあります。

ただ、学習の仕方は子どもによってパターン化していますから、継続して取り組んでいくことで、1時間の指導にも集中するようになっていきます。

言語性を伸ばす指導 2枚の絵カードを使って

[きょうは さむいです。] [エアコンをつけました。]とそれぞれの文を書いたカードを見せて読みます。

そのあと、

[けれども] [だから]

とつなくことばを出します。

「どちらのことばでつなくかな？」と問います。

正しいことばを選んだら、

「そうです。寒いから、あたたまりたいよね。だからエアコンをつけるよね。」

「今日は寒いから、エアコンをつけました。と言うのと同じ意味だよ。」

と説明します。

そして、

「[きょうは さむいです。] [けれども]とつないたら、[エアコンを]どうしているの

かな？」
と問います。
補助的に

「寒くて、あたたまりたい。けれども。がまんしてエアコンをどうしているのかな？」
「[けれども]は、これから反対のことを話すよ。前の文から予想できるのとは反対のことを話すという印です。」
と説明して、考えさせます。
「今日は寒いけれど、エアコンをつけません。と言うのと同じ意味だよ」
二つの文を読み比べます。

漂泊鳥から
ツバメが水面近くをぶつかることなく器用に飛んでいます。
明日は雨かな・・・？
「ことばだより」の感想は「もりの掲示板」にお寄せください。
<http://www3.kcn.ne.jp/~ntakashi/cgi-bin/yybbs/yybbs.cgi>
ことばのもり 管理人 漂泊鳥

=====
ことばだより No.21

ことばのもり 2003.5.14
=====

INDEX

ことば徒然 集中時間の短い子に
言語性を伸ばす指導 場面絵カードを使って

ことば徒然 集中時間の短い子に

集中時間の短い子は、教室の掲示物や前の時間の子どもにつかった教材に注意が移りやすいです。

同じ教材をつかってくり返しの勉強ではあきてしまいます。

そのときに、教材を探しては、ちがうものに関心が移ってしまいます。

また、何をどれだけするのか、がわからなければ、不安に思います。

TEACCH プログラムに、子どもたちが見通しを持って活動できるように「実物によるスケジュール表」「絵によるスケジュール表」「文字によるスケジュール表」というのがあります。

これを参考にして取り組んでいます。

その1 課題箱をつかって

指導時間につかう絵カード、本、ノートなどを見せる。

「きょうは、この箱の中のものをつかって勉強をします。」

箱の中の課題をひとつずつ取り出し、していく。

終わればちがう箱に入れていく。

はじめの箱が空になれば、その時間の指導を終わる。

この方法では、はじめ何をするのかは分かりません。

しかし、どれだけすればおわりなのか、すぐに理解できるでしょう。

言語性を伸ばす指導 場面絵カードを使って

園児用に、入学式後の学校生活の流れを絵カードに描いたことがあります。

不安傾向のある子どもに、卒園前にこれを使って、指導します。

教科書やノート、筆箱をランドセルに入れている場面、

給食を食べている場面

遠足の場面

梅雨になり、傘をさして登校する場面、

水泳学習の場面

などが一枚の画用紙に描いてあります。

漂泊鳥から

遠足に行き、山つつじの花を見てきました。

「ことばだより」の感想は「もりの掲示板」にお寄せください。

<http://www3.kcn.ne.jp/~ntakashi/cgi-bin/yybbs/yybbs.cgi>

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

=====
ことばだより No.20

ことばのもり 2003.5.7

INDEX

ことば徒然 個別の指導

発音の誤りへの指導

ことば徒然 個別の指導

ことばの教室での指導は、大半が1対1の個別指導です。指導する内容が、一人ひとりちがうからです。ことばの問題には、いくつかのパターンがあります。しかし、発音の誤りや吃音といった問題をもつ子が、改善していく過程は一人ひとりちがいます。複数の子どもを集めて指導できる内容ではないのです。言語の発達の遅れが知的発達の遅れを招かないように指導するには、個別指導が必要です。

発音の誤りへの指導

単音レベルで正しい発音器官の運動を習得させます。

さらに連続音、ことばや文のリピート、音読、会話レベルでも正しく発音できるように、練習を重ねます。

連続音や無意味連続音の練習で誤りが出てくる場合、無理をして自発のネーミングをさせると、誤った発音になることが多いです。

それは、次のような理由からです

話そうとする内容は脳でつくられます。

そして、発音器官の動きがプログラミングされます。

このプログラミングは運動神経をとおり、発音器官の筋肉に送られ、話しことばとなります。

話す内容は意識的につくられますが、発音器官のプログラミングは、無意識の中でつくられます。

単音、無意味連続音では、新しい音として意識し、発音することができます。

3～4音程度を意識して発音することは、やさしいことです。

しかし、自発のネーミングや音読、日常会話になると、そうはいきません。

それまでの誤った発音器官の動きのままプログラミングされやすいのです。

そして、誤ったプログラミングのまま、発音器官に送られ、話しことばになるからです。

漂泊鳥から

ゴールデンウィークが終わりました。

指導にも熱をいれて・・・。

「ことばだより」の感想は「もりの掲示板」にお寄せください。
<http://www3.kcn.ne.jp/~ntakashi/cgi-bin/yybbs/yybbs.cgi>
ことばのもり 管理人 漂泊鳥

=====
ことばだより No.19

ことばのもり 2003.4.30
=====

INDEX

ことば徒然 発音の誤りから
吃音を軽減する指導

ことば徒然 発音の誤りから

子どもも単音で出せるとわかれば、やる気ができます。
そして、新しい発音のパターンを親にもしてもらいます。
家で練習してもらい、そのパターンの定着を図るためです。
ところが初回に指導した方法では、定着しないときがあります。
新しい発音のパターンが定着せず、誤った発音のパターンに戻っているときがありま
す。
それは、今までの発音のパターン（誤った発音のパターン）の方が本人には普通だか
らです。
発音するには、細かい、正確な協調運動が必要なんです。
舌の位置がほんの1～2ミリずれただけで、誤り音になります。
今までの発音のパターンができて当然です。
こんなときは、家での練習の様子を聞いたり、練習中の録音テープを聞いたりして、
練習するように子どもを励まします。
それでも定着しないときは、理由をもう一度考え直します。
発音器官の運動パターンをもう一度観察します。
そして、仮説を立てて、新しい発音のパターンを練習していきます。
さらに、聴覚弁別の力をのばすようにします。単音、無意味連続音、ことばでも弁別で
できるように取り組んでいきます。

吃音を軽減する指導

苦手な場面への対応の仕方を指導します。
「明日、自己紹介するので緊張する」と話す子がいました。
「話さなければいけない」と言う思いと「話せなくなったらどうしよう」と言う思いで
不安なのでしょう。

その子に

みんなの前で話すのは、先生も緊張して夜も眠れないことがあること。
みんなの前で、何を話すかわすれてしまい、マイクを持ったまま立ちすくんだこと。
そんなことがあってからは、できる限りの準備をしておくようにしていること。
を話しました。

漂泊鳥から

外国の日本人学校に行った先生からメールが届きます。
メールを読んでいると、自分が僻地に行っていた頃のことを
思い出します。

ことばだより」の感想は「もりの掲示板」にお寄せください。

<http://www3.kcn.ne.jp/~ntakashi/cgi-bin/yybbs/yybbs.cgi>

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

=====
ことばだより No.18

ことばのもり 2003.4.23

=====

INDEX

ことば徒然 受けとめること
言語性を伸ばす指導 絵カードを並べて

ことば徒然 受けとめること

発達の中で表現することについてまとめてみました。
人は、自分が表現したことを受け止められると、うれしいものです。
子どもの場合も、同じようにうれしいし、この人ならといった安心感も育ちます。
この安心感が新しいことにも取り組んでいこうかな、一度やってみようかなという
気をおこさせます。

しかし、子どもの周りにいる大人がいつもいつも答えられるわけではないでしょう。
兄弟もいます。

家族もいます。

家事や仕事もあるでしょう。

そんなときは、子どもと1対1で過ごす時間を決めて、その限られた時間にしっかり、
子どもの表現に答えることです。

家族で食事をするとき、子どもがねるときに、子どもと過ごせる時間に子どもの

話しに耳を傾け、答えることです。
子どもは、欲求を満たされることで、安心感をもち、それをエネルギーとして、
子どもは自立にむかうことができます

言語性を伸ばす指導 絵カードをならべて

「したこと おしえて」で
「～で ～を つくりました」の文型を学習した後、
絵カードを見せ、「で」「を」つかって文づくりをします。
「せっけんで てを あらいます。」
「つみきで おしろを つくります。」
「クレヨンで えを かきます。」
「はさみで かみを きります。」
「ぞうきんで つくえを ふきます。」
「あみで むしを つかまえます。」
「スプーンで アイスクリームを たべます。」
なにで なにを どうするの文型の習得をはかります。

漂泊鳥から

教え子から「もしかして」とメールをもらいました。

うれしいものです。

「ことばだより」の感想は「もりの掲示板」にお寄せください。

<http://www3.kcn.ne.jp/~ntakashi/cgi-bin/yybbs/yybbs.cgi>

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

=====
ことばだより No.17

ことばのもり 2003.4.16

=====
INDEX

ことば徒然 ことばの教室に

言語性を伸ばす指導 場面絵カードを使って

ことば徒然 ことばの教室に

教室で指導している子は発音の誤りか、言語発達に問題のある子が大半です。

中に発達バランスの問題をもつ子がいます。
発達のバランスに問題があるとは、
言語性と動作性、視覚認知能力と聴覚認知能力、同時処理と継次処理、知的発達と情緒発達のバランスがわるいということです。
このことが原因で幼稚園の生活では、
全体への指示を理解できない、
一人はなれて、ちがうことをしている、
お話しに興味を示さない、
または理解できない。
友だちと遊ばないで、一人でいることが多く、呼びにいても、理解しない、
などといった問題をうみます。

言語性を伸ばす指導 場面絵カードを使って

場面絵カードを提示し、
「何をしていますか？」
と問います。
女の子が、切符を買って電車に乗ろうとしている場面の絵カードです。

「何を買っていますか？」
「切符をどうしているの？」
「だれが切符を買っていますか？」
と問います。

こたえたことばを書きだし、「が」「を」の助詞をならべて、文をつくります。
切符 買っています 女の子 が を

女の子 が 切符 を 買っています。

この後、電車を指差して
「なぜ切符を買っているの？」
と問います。

「女の子が 切符を 買っています。電車に 乗るためです。」

漂泊鳥から
地下道に巣を作ったツバメの低空飛行のうまさに驚いています。
壁や人にぶつかりそうで、ぶつからない。
器用にスピードを落とすし、避けていく。
「ことばだより」の感想は「もりの掲示板」にお寄せください。

=====
ことばだより No.16

ことばのもり 2003.4.9
=====

INDEX

ことば徒然 聴覚認知より視覚認知
言語性を伸ばす指導 絵カードを使って

ことば徒然 聴覚認知より視覚認知

自分は視覚認知がどちらかと言うと強いです。
聞いて分かることより、見て分かることのほうが多いです。
聞いているだけでは、理解できないことも、見ればすっきりと、理解できることがあります。
学校のペンキ塗りだってそうでした。
プリントで説明を聞くよりも、実際に塗っているのを見るほうが、塗り方を理解できました。
パソコンだって、自分で画面を出して、いろいろ操作してみて、覚えてきました。
解説書を読むより、自分の指で、キーを打ちながらいろいろ試しながら、たくさんのかんことを理解しました。
最近、店屋さんの対応までマニュアルがあるといいです。
自分もきっと、その店の人になれば、人のするのを見て仕事ができるかもしれない。
しかし理解し、自分でできるようになるまで時間がかかるから、きっとリストラにあうかな？

言語性を伸ばす指導 絵カードを使って

1年のこくご下の教科書に「くらべて せつめいしよう」という題材があります。
そのときに絵カードを使い、表現方法を学びます。
大小、長短、高低、多少関係を理解し、比較の表現を学びます。
共通点や似ているところを探し、表現方法を学びます。
ちがうところを探し、表現方法を学びます。

ぞうとありの絵カードをならべて
「ぞうは ありより おおきい。」

「ありは ぞうより ちいさい。」
「大きさを くらべると、大きいのは、ぞうの ほうです。」
「大きさを くらべると、小さいのは、ありの ほうです。」
子どもの筆箱にあるえんぴつや消しゴムを使い、背比べや大きさ比べなどもできそうです。

えんぴつとクレヨンの絵カードをならべて
「えんぴつも クレヨンも かくときに つかいます。」
「えんぴつと クレヨンは、どちらも かくものです。」
「えんぴつで ノートに じを かき、クレヨンで がようしに えを かきます。」

漂泊鳥から
入学式です。
今年はまだ桜が咲いています。
「ことばだより」の感想は「もりの掲示板」にお寄せください。
<http://www3.kcn.ne.jp/~ntakashi/cgi-bin/yybbs/yybbs.cgi>
ことばのもり 管理人 漂泊鳥

=====
ことばだより No.15

ことばのもり 2003.4.2
=====

INDEX
ことば徒然 発音の誤りから
吃音を軽減する指導

ことば徒然 発音の誤りから

指導の初期に、いくつかある誤り音のうちの、ひとつの音に集中して、改善へと取り組みます。

そのひとつの音を選ぶのは、以下の基準で選びます。

- ・発音を獲得する順番に従います。
 - なぜなら誤った発音のパターンを定着させないためです。
 - ・誤りに一貫性のない音、被刺激性の高い音を選びます。
- その音は、はやく改善するからです。

・本人や親が最も気にしている音、会話明瞭度を下げている音を選びます。
取り組みへの意欲付けのためです。

いよいよ指導が始まります。

はじめに、単音で正しく発音できるように新しい運動パターンを指導していきます。
そのためには、正しい見極めと多少の技術が必要です。

単音で発音できるということは、会話でも正しく発音できるようになる可能性を広げたこととなります。

吃音を軽減する指導

句点なら「1」読点なら「1、2」と数唱させます。

慣れてきたら、首を前後に振り、声に出さないで、数唱させます。

それにも慣れたら、利き手の人差し指で、机をうって声に出さないでリズムをうたせます。

句読点までが長い場合には、区切り線を入れ、そこでも間を取るように言います。

さらに、漢字の読みがわからず、あせってしまう場合には、読み仮名を書くように言います。

そして、覚えたら消すように指示します

いっしょに音読し、吃音への不安を取り除きます。

さらに、いっしょに音読していた声を少しずつ小さくしていきます。

それにも慣れたら、もっと小さい声で、ハミングをし、音読をさせます。

1回目の音読を録音し、練習途中の音読を録音し、再生したのを一緒に聞きます。

音読がうまくなっていることを確かめます。

音読の内容が理解できることを評価し、自信を持たせます。

そして更なる練習への意欲付けをしていきます。

次のステップとして、完全読み、暗唱するというプレッシャーを少しずつかけていきます。

はじめは短めの段落から取り組んでいきます。

そして少しずつ長い段落に取り組んでいきます。

漂泊鳥から

開花宣言！！駅のホームの桜が咲き出しました。

いよいよ春ですね。

「はじまり」を感じます。

(実は、きのうが誕生日でした。)

「ことばだより」の感想は「もりの掲示板」にお寄せください。

<http://www3.kcn.ne.jp/~ntakashi/cgi-bin/yybbs/yybbs.cgi>

INDEX

ことば徒然 次へのやる気
言語性を伸ばす指導 絵カードをならべて

ことば徒然 次へのやる気

音に誤りがあり、ことば数が少ない年長の幼児を指導しています。
発音への指導をしながら、ひらがなを教えていきました。
はじめは、ひらがなを行ごとに教え、読むことをねらいに指導していました。
一音ずつ読めるようになり、発音の誤りも改善してきています。
つづけて、列ごとに教え、文を読むこと、書くことをねらいに指導しています。
手本をノートの下において、ノートにうつる手本のひらがなを書く。
手本をノートの横において、ひらがなを書く。
これから、のぼっていくステップは多いです。
それでも、今日できたことを子どもに「できたね」「よくできました」「おぼえたね」と声をかけます。
この声かけが次へのやる気につながるから・・・。

言語性を伸ばす指導 絵カードをならべて

理解言語はあるのに、あまり自分から話さない子に絵カードを使いながら、話しやすいように指導します。

その1 答えを選択させる

例1 りんご、みかん、いちごの絵カードを見せて

「この中で、どれが好き？」と聞きます。

絵カードの一枚を指させば「・・・が好きか？」と問い直し、返事を待ちます。

例2 家族の絵カードを並べて、「きょうは誰ときたの？」と聞きます。

絵カードの一枚を指させば「・・・と来たの？」と問い直し、返事を待ちます。

例3 「ことばの教室に電車で来たの？自動車で来たの？」と聞きます。

絵カードの一枚を指させば「・・・で来たの？」と問い直し、返事を待ちます。

その2 絵カードを見せて、「はい」「いいえ」を答え、想起させる。
運動会が終わったところに
玉入れやつなひき、徒競走、リレーの絵カードを見せて「こんなのした？」と聞きます。
絵カードの一枚を指させば、「・・・をしたの？」と問い直し、返事を待ちます。

漂泊鳥から

3学期もおわりました。

ちょっとひとやすみ。

「ことばだより」の感想は「もりの掲示板」にお寄せください。

<http://www3.kcn.ne.jp/~ntakashi/cgi-bin/yybbs/yybbs.cgi>

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

=====
ことばだより No.13

ことばのもり 2003.3.19

=====
INDEX

ことば徒然 発音の誤りから

言語性を伸ばす指導 絵カードをならべて

ことば徒然 発音の誤りから

発達とともに、正しい発音を獲得していきます。

しかし、小学校に入学しても、まだ発音に誤りが見られる場合には、何らかの指導を受ける必要があります。

いつまでも、「様子を見てみよう」と放置していると、発音の誤りは2次的な問題をつくるときがあります。

話の内容が伝わらないため、話すことを嫌がります。

発表することや音読を嫌がります。

遊び時間の活動が不活発になります。

自分の思いが伝わらないために情緒不安になることもあります。

より適切な時期に問題を発見し、適切な指導を受けることが大切です。

言語性を伸ばす指導 絵カードをならべて

「くつをぬいでいる」絵カードのあとに「くつをはいている」絵カードを並べると、動きがでます。

靴をはいていることを理解しやすいです。

逆に並べれば、靴をぬいでいることを理解しやすいです。

同じように、

「窓をあける」「窓をしめる」

「服を脱ぐ」「服を着る」

「ボタンをとめる」「ボタンをはずす」

「ゴミを捨てる」「ゴミを拾う」

の絵カードも並べると、動きがで、理解しやすいです。

漂泊鳥から

今日は卒業式。

6年間の小学校生活、最後の授業です。

大きな舞台に立ちます。

「ことばだより」の感想は「もりの掲示板」にお寄せください。

<http://www3.kcn.ne.jp/~ntakashi/cgi-bin/yybbs/yybbs.cgi>

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

=====
ことばだより No.12

ことばのもり 2003.3.12

=====
INDEX

ことば徒然 エネルギーの源

言語性を伸ばす指導 教科書を使って

ことば徒然 エネルギーの源

物を目で追い、そのものに手をのばし、にぎり、もったままふりはじめます。
ものへの興味や関心がエネルギーの一つなのでしょう。

人見知りをし、いつも近くにいてくれる人の後追いをはじめます。
守られていることでエネルギーをためていきます。

子どもが大人のまねをし、近くにいる人がその様子を見て対応します。
自分ですると主張し、なかなかできないけれど、自分でしていきます。

周りにいる人がそれを見て「できたね」と声をかけます。
学びつづける中でも、エネルギーを補充していきます。

言語性を伸ばす指導 教科書を使って

1年生のこくご上に「みつけたよ」の題で絵が載せてあります。
この絵を使って、「みつけたよ」作文を書きます。

はじめは、絵を見せて、

「これはなに？」

と問い、何を見つけたのか、応答させます。

答えは単語カードに書かせます。

指導者は「かえるをみつけたよ」と言って、子どもにリピートさせます。

つぎに「どこにいますか？」

と問い、その生き物がどこにいるか、応答させます。

答えは単語カードに書かせます。

指導者は「いけでみつけたよ」と言って、子どもにリピートさせます。

そして「この人はだれ？」

と問い、だれが見つけたのか、応答させます。

答えは単語カードに書かせます。

「おとこのこがみつけたよ」と言って、子どもにリピートさせます。

子どもの「答えた三つを「が」「で」「を」で、つないでみるよ」と言って一文にならべていきます。

「おとこのこ」「が」「いけ」「で」「かえる」「を」「みつけたよ」

はじめは、指導者が組み立ててみて、読んでみます。

子どもにも読ませてみて、ばらばらにします。

「できるかな？文にしてみよう。」

と指示します。

いくつか例示してあげるとできるものです。

漂泊鳥から

「三寒四温」にはまだまだなような気がします。

「五寒二温」というところでしょうか。しかし、
春遠からず・・・。すこしずつ、近づいているはず。

「ことばだより」の感想は「もりの掲示板」にお寄せください。

<http://www3.kcn.ne.jp/~ntakashi/cgi-bin/yybbs/yybbs.cgi>

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

INDEX

ことば徒然 あかつき
言語性を伸ばす指導 教科書を使って

ことば徒然 あかつき

あかつきの光が、小屋の中にすがすがしく流れ込んできました。
5年の国語教科書の「大造じいさんとガン」に出てくる表現です。
大造じいさんと残雪の戦いの朝です。
いよいよ戦いの始まりです。
大造じいさんからすれば、このときを待っていたんです。
「今年こそ、今日こそ、しとめてやる」と言う思いで、この日を迎えています。
「自分の猟銃の玉が届くところに残雪がきたら、絶対にしとめるぞ」と言う思いで迎えた朝です。
緊張感があります。
ところで「あかつき」と同じ「あけぼの」と言うことばがあります。
あかつきの時間帯とあけぼのの時間帯、どちらがはやいのでしょうか？
また、夕日の色を「あかね色」というが、朝日の色を「あかつき色」と言うのだろうか？

言語性を伸ばす指導 教科書を使って

「みんな なかよし」
1年の国語の教科書はこれではじまっています。
絵を見て、「ここはどこかな？」「子どもの部屋かな？」
「たくさん子どもがいるね。」「1年 組の子かな？」
「このめがねをかけている子は誰かに似ていない？」
「女の子も誰かに似ていない？」
「みんなで何を見ているのかな？」「おおきいね。」
「何を話しているのかな？」
「この島の名前はなんていうんだろうね？」
と問い、子どもの答えを待ちます。

漂泊鳥から
インフルエンザも下火になったかと言うときに、
風邪を引いてしまいました。
みなさんもお気をつけください。
外から帰れば、うがい、手洗いを・・・
「ことばだより」の感想は「もりの掲示板」にお寄せください。
<http://www3.kcn.ne.jp/~ntakashi/cgi-bin/yybbs/yybbs.cgi>
ことばのもり 管理人 漂泊鳥

=====
ことばだより No.10

ことばのもり 2003.2.26
=====

INDEX

ことば徒然 エアコンの修理と
言語性を伸ばす指導 教科書を使って

ことば徒然 エアコンの修理と・・・

2学期半ばに、学習室1のエアコンが壊れました。
リモコンでオンにいれても、しばらくすると消えてしまいます。
業者の人が修理に来てくれました。
ひとつずつ部品を変えて、動くか？どうかを確認して、部品を取りに店にもどり、また来られていました。
発音の誤りへの指導と似ています。
ひとつの方法を試してみても、どれだけ改善したか確認します。
だめなら、またちがう方法で試してみます。
エアコン本体を取り替えるのなら、きっとこんなに時間はかからないでしょう。
部品が店になくて、取り寄せるのにも時間がかかっているのでしょう。
子音と母音の発音で日本語はできています。
ある子音全体が誤っていたら、改善も早いでしょう。
しかし、ある子音と母音を組合せた数音だけが誤っているとき、結構改善するのに時間がかかるケースがあります。
喩えがよくないかもしれませんが、よく似ています

言語性を伸ばす指導 教科書を使って

1年の教科書に「天に のぼった おけや」の話が載っています。

挿絵を見ながら、文を作っていきます。

挿絵を指差しながら、「だれが?」「どこで?」「なにをしているの?」と順番に問います。

「おけやが」これは登場人物がわかれば、答えられます。

「くもの上で」これは前の場面でくものうえにのぼったおけやがかみにりに頼まれたことがわかっていれば出てきます。

「何をしているの?」の問いには、自分のことばで答える子と教科書のことばを使って答える子に分かれます。

「雨を ふらせています。」

「雨の たねを まいています。」

どちらを高く評価するか難しいところです。

しかし、教科書のことばに忠実であってほしいと願います。

自分のことばで答えることが必要になるところがあります。

しかし、文章の読み取りをしています。

かみなりがたのむときも

「この水ぶくろから、あめの種をちくちくまくだけでええのや。・・・」と言われていきます。

挿し絵になっているところの表現では

「おけやもあめのたねをちくちくまく。」

と書かれています。

だから、後者を高く評価します。

漂泊鳥から

7号と9号のことば徒然の記事が同じでした。

お詫びいたします。

久しぶりにかぜをひきました。

「ことばだより」の感想は「もりの掲示板」にお寄せください。

<http://www3.kcn.ne.jp/~ntakashi/cgi-bin/yybbs/yybbs.cgi>

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

=====
ことばだより No.9

ことばのもり 2003.2.19

=====
INDEX

ことば徒然 ことば数と発音

言語性を伸ばす指導 絵カードをならべて

ことば徒然 ことば数と発音

ことば数がふえると、発音も正しくなる。
発音が正しくなると、ことば数もふえる。

ことば数が少ないと、発音に誤りもでる。
発音に誤りがあると、ことば数も少ない。

今までに出会った、たくさんの子どもにあてはまります。
ことば数がふえるということは、弁別できるものがふえるということです。
ブーブーだったのが、「くるま」「バス」になります。
ワンワンだったのが、「いぬ」「ねこ」になります。
「くるま」や「バス」、「いぬ」や「ねこ」ということばを聞いて理解するだけでなく、
表現できるようになることです。
正しく発音できるようにもなるんでしょう。

しかし、ことば数の多い子の中にも発音が誤っている子がいます。
また、ことば数の少ない子の中にも発音が正しい子がいます。
このような子にも出会いました。
発達のスピードの違い、個人差と言われるんでしょうね。

言語性を伸ばす指導

絵カードを机に並べます。
「りんご、いちご、みかんをください。」と手を出します。
子どもの短期記憶を確かめます。
その後、「りんごといちごとみかんをまとめると何というかな？」
と問い、上位概念を確かめます。
もう一度絵カードを戻し、
「くだものをください。」と手を出します。
子どもの理解を確実にしていきます

漂泊鳥から

やっとインフルエンザや風邪で指導を休む子も減ってきました。

今から、ラストスパートです。

「ことばだより」の感想は「もりの掲示板」にお寄せください。

<http://www3.kcn.ne.jp/~ntakashi/cgi-bin/yybbs/yybbs.cgi>

INDEX

ことば徒然 表現すること
言語性を伸ばす指導 ひらがな文字を教えるわけ

ことば徒然 表現すること

人は何かを表現して生きています。
赤ちゃんは産まれるとき「オギャア」と元気な産声をあげます。
赤ちゃんがはじめて空気を吸い、肺を膨らませ、その空気を吐き出すときの声です。
赤ちゃんは誕生したことを産声で表現しています。

それから、子どもの表現力に問題があったり、受け止める大人の理解力に問題があったりして、教室で出会うことになります。
しかし子どもは、自らの発達のスPEEDの中で、さまざまなことを表現してきています。
教室では、子どもと大人がやりとりできるように、子どもの表現力を育てることが、自分の表現だと思っています。

言語性を伸ばす指導 ひらがな文字を教えるわけ

ひらがな文字を教えるわけ

ことばを覚えるのは、親と子どもが豊かな共感関係で結ばれていることが必要です。
子どものことばの発達が遅れているのは、子どもの側か親の側かそれとも両方に何らかの原因があり、今まで共感関係を結べないでいたと考えられます。
ひらがな文字全部を一度に覚えるのは難しいですが、くり返し教えることで、少しずつ覚えていけます。
子ども自身ができたという自信がもてます。
この経験は次の課題に取り組んでいく原動力になります。
親にとっても、どう関わっていいのかわからなかった子どもに、ひらがな文字を教えることで、子どもへのかかわり方を学ぶことができます。

親が子どもにひらがな文字を教え、子どもが習得していくことで、親と子どもの1対1

の関係、共感関係を結びやすいのではないかと考えるからです。

漂泊鳥から

「ことばだより」の感想は「もりの掲示板」にお寄せください。

<http://www3.kcn.ne.jp/~ntakashi/cgi-bin/yybbs/yybbs.cgi>

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

=====
ことばだより No.7

ことばのもり 2003.2.5

=====
INDEX

ことば徒然 ことば数と発音

言語性を伸ばす指導 場面絵カードを使って

ことば徒然 ことば数と発音

ことば数がふえると、発音も正しくなる。
発音が正しくなると、ことば数もふえる。

ことば数が少ないと、発音に誤りもでる。
発音に誤りがあると、ことば数も少ない。

今までに出会った、たくさんの子どもにあてはまります。
ことば数がふえるということは、弁別できるものがふえると言うことです。
ブーブーだったのが、「くるま」「バス」になります。
ワンワンだったのが、「いぬ」「ねこ」になります。
「くるま」や「バス」、「いぬ」や「ねこ」と言うことばを聞いて理解するだけでなく、
表現できるようになることです。
正しく発音できるようにもなるんでしょう。

しかし、ことば数の多い子の中にも発音が誤っている子がいます。
また、ことば数の少ない子の中にも発音が正しい子がいます。
このような子にも出会いました。
発達のスピードの違い、個人差と言われるんでしょうね。

言語性を伸ばす指導 場面絵カードを使って

はじめに、雪がふっている絵カードを見せて、

「天気はどうですか？」

と問います。

「天気は雪です。」

「雪がふっています。」

つづいて、ストーブにあたる絵カードを見せて、

「何をしていますか？」

と問います。

「ストーブをつけています。」

「ストーブにあたっています。」

二つの文をつなぐことばとして、「けれども」「それで」を提示し、

「どちらでつないだらいいかな？」と問います。

漂泊鳥から

寒い日が続いています。

雪道を久しぶりに歩きました。

学校への行き帰りの電車に、いつもなら見ない人が乗っていました。

「ことばだより」の感想は「もりの掲示板」にお寄せください。

<http://www3.kcn.ne.jp/~ntakashi/cgi-bin/yybbs/yybbs.cgi>

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

=====
ことばだより No.6

ことばのもり 2003.1.29

=====
INDEX

ことば徒然 検査と責任

言語性を伸ばす指導 教科書を使って

ことば徒然 検査と責任

ことばには責任が伴います。

ことばと行動は同じでありたいと思います。

検査をすれば、知能指数という数字が出てきます。

出てきた数字は、責任をもって伝えるようにしています。
どうすることが、その伝えたことばに責任をもつことなのか？

その子の問題の原因は何か
その子の問題の何から関わればいいのか
その問題にどのように関わっていくのか
考え、具体的に助言することです。

そして少しでもその子の問題が軽減するように取り組むことです。

言語性を伸ばす指導 教科書を使って

1年こくご上「おおきな かぶ」
さし絵を見ながら、文を作っていきます。
さし絵を指差しながら、「だれが？」「なにを？」「だれを？」「どうしているの？」
と順番に問います。
「おじいさんが かぶを ひばって」
と文を作ります。
逆に「なにを？」「だれを？」「だれが？」「どうしているの？」と問うてみます。
「かぶを おじいさんが ひばって」
と文を作ります。
助詞の使い方を誤ると、
「かぶが おじいさんを ひばって」
になってしまいます。
こういう子がいたら、
「なにを？」「だれが？」と問うときに、答えの絵を指差しあげればよい
場面ごとにさし絵があります。
練習することができます。

指差しをしないで「なにを？」「だれが？」に答えられればよいと思います。
たとえ、誤っていても、書いてみると助詞の誤りに気づく子がいます。
それも誤っているときは、正しく助詞を使った文をリピートさせ、終わります。

お知らせ その1

「舌と歯」を更新しました。

字のとおり、舌と歯について少しまとめてあります。

お知らせ その2

「検査結果から2」をまとめています。

もう少しお待ちください。

漂泊鳥から

早いもので、もう1月もおわりですね。

学校のそばにある神社の梅の木に、花が咲き始めています。

「ことばだより」の感想は「もりの掲示板」にもお寄せください。

<http://www3.kcn.ne.jp/~ntakashi/cgi-bin/yybbs/yybbs.cgi>

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

=====
ことばだより No. 5

ことばのもり 2003.1.22
=====

INDEX

ことば徒然 双方向の関係

言語性を伸ばす指導 絵カードを使って

ことば徒然 双方向の関係

朝、登校すると、ことばの教室にあいさつにくる1年生の女の子がいます。
教室の移動で、遠回りになるのに、ことばの教室の前の廊下を歩いていく男の子がいます。

中休みになると、いつもたずねてくれる4年生の男の子がいます。

掃除の時間、委員会の仕事で燃えないごみを集めにくる6年生がいます。

あいさつや一言二言、ことばのやりとりをしています。

そうすることで、強いもの、弱いものの関係でなく、

教え、教えられる関係でもなく

大人と子どもの関係でもなく、

教師と児童の関係でもない、

双方向の関係が結べます。

言語性を伸ばす指導 絵カードを使って

ことば数が少なくても、たいていの子には好きなものがあります。

乗り物であったり、動物であったり、花であったり、人形であったり、アニメの主人公であったり・・・。

それを使えば、ことば数を増やすことができるかもしれないと思い、ピカチュウがはやっていたときは、カードを買いました。

そのカードを見ながら、話していると、子どものほうが詳しくて、いくらでもことばが出てきます。

「この名前は？」と聞きはじめると、いろいろと話してくれます。自分のほうが、うなづくしかできず、ことば数が少なくなります。リピートしているのは、自分のほうでした。教える立場と教わる立場が逆転しました。これも楽しいものです。またピカチュウのおかげで、ある子どもがカタカナを覚えていきました。ひらがなに書き換えて、ひらがなを覚えていった子どももいます。マンガの悪影響が言われますが、肝心なのはどのように使うかです。

漂泊鳥から

1月のスタートはうまくできましたか？

寒い日が続いています。

風邪を引く前に、体を休めましょう。

「ことばだより」の感想は「もりの掲示板」にお寄せください。

<http://www3.kcn.ne.jp/~ntakashi/cgi-bin/yybbs/yybbs.cgi>

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

=====
ことばだより No.4

ことばのもり 2003.1.15

=====
INDEX

ことば徒然 教室でできること

発音の誤りへの指導 恐るべし教科書

ことば徒然 教室でできること

改善がみられ指導を終了していきましたが、不安がなくなったわけではありません。

すこし環境が変われば、体調がわるければ、スムーズに話せるだろうか？

吃音が出ても最後まで話すだろうか。

伝えようとするのを途中であきらめてしまうことはないだろうか。

自分で楽に話せる方法を見つけることができるだろうか。

その時、だれか近くにいい相談相手はいるだろうか。

人によってはなんでもないと思えるようなことでも、自分にはどうしようもないくらい失敗に思えることがあります。

失敗体験から、「不安」が目覚まし、次のときにもその「不安」は「現実化」してしまう。

失敗を繰り返してしまう。

ついには記憶に残っていく。

そうなると、いよいよ「不安」は「恐れ」となり、どうすることもできず、「恐れ」から「逃避」しかできなくなってしまう。

「不安 現実化 恐れ - 現実化 - 逃避」といったマイナス思考の回路がはたらくと、吃音があらわれ、進行していくことも予想できます。

そのときに「逃げなかった - よくやった - 自信 挑む」といったプラス思考の回路がはたらいてくれることを願います。

発音の誤りへの指導 恐るべし教科書

1年の教科書のはじめは、「みんな なかよし」です。

「あ」「い」「う」「え」「お」「か」「し」「た」「な」「ま」「み」「よ」「ん」のひらがなからできています。

ひらがな文字のあ～わ行の10行のうち、「あ」「か」「た」「な」「ま」の5行のあ列の文字がでてきます。

この行の発音は、早い時期に獲得される音です。

この発音を獲得しているか、確認できます。

つづいて、母音のひらがなとその口形がでてきて、母音が語頭につくことは集めをしています。

そのことばには、入学前にやっと獲得されるラ行の音、サ行の音、チ音、ツ音がでてきます。

ここで、その発音を獲得しているか確認できます。

漂泊鳥から

13日の日に買い物に行って帰り道、黒い服を着た男の人が集まっていました。

何かあったのかと思いましたが、成人の日だったんですね。

「ことばだより」の感想は「もりの掲示板」にお寄せください。

<http://www3.kcn.ne.jp/~ntakashi/cgi-bin/yybbs/yybbs.cgi>

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

=====



INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導 教科書を使って

ことば徒然 教室でできること

子どもの性格が吃音の進展に影響するといいます。
今まで指導してきたのは、性格的に内向型のタイプの吃音児が多いかなと思います。
どの子ども次のようなことができるようになったと思います。
「不安を受け入れることにより、不安を解消していくこと、少なくすることができた。
スムーズに話す方法を教え、スムーズに話せたという経験をつませることができた。
斉読をすることで、音読でみられた吃音の症状を軽減することができた。
否定的な思いに共感し、肯定的な思いに過大すぎるくらい評価することで、以前より
明るくふるまうようになってきた。
母親も吃音のことを理解してきた。
そのことにより、吃音の症状は多少改善することができた。」
と。そして、指導している自分も、ことばの教室で何ができるか分かってきたように
思います。
「限られた場面、限られた語音にあった吃音の症状は、多少改善していける。
ことばの教室の1対1の指導の場面でなら成功体験を積むことはたやすい。
そして、きっと学級という30数名の前でも、なんとか成功体験を積むこともできるだ
ろう。」と

言語性を伸ばす指導 教科書を使って

国語の1年の教科書に「大きなかぶ」という話が載っています。
そのなかに、このような表現があります。
「うんとこしょ どっこいしょ。」に続いて、
「けれども かぶは ぬけません。」
「それでも かぶは ぬけません。」
「まだまだ かぶは ぬけません。」
「とうとう かぶは ぬけました。」
とあります。
「けれども」「それでも」「まだまだ」の後は、

「ぬけません」と続きます。
「とうとう」の後は、
「ぬけました」と続きます
このつながり方を間違えると「ことば違い」になります。

漂泊鳥から
あけましておめでとうございます。
みなさんにとって今年もいい年でありますように・・・。

「ことばだより」の感想は「もりの掲示板」にお寄せください。
<http://www3.kcn.ne.jp/~ntakashi/cgi-bin/yybbs/yybbs.cgi>

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

=====
ことばだより No.2

ことばのもり 2002.12.31
=====

INDEX
ことば徒然
発音の誤りへの指導

1、ことば徒然 指導を記録するとき

指導がうまくできなかつたとき、こんな視点でふり返るようにしています。

？ 適切な課題であったか？

課題が難しすぎると、やる気をなくします。

反対にやさしすぎると、いいかげんになります。

子どもの力に見合った難易度であることが大切です。

幼児への個別指導では、「もうすぐわかること」「もうすぐできそうなこと」を課題としています。

児童への個別指導では学習の補充に取り組みます。

教科書の難しい課題には、解き方のパターンを教えます。

そのパターンでいくつかの問いに答えていき、習得すること、記憶し定着することをねらいにしています。

？ 適切なモデルを提示したか？

その課題をやり遂げるためのモデルを提示することが必要です。

たとえば、新出漢字を視写できないときには、ノートに手本を赤で書いてなぞら

せませす。

マスの横に一画ずつ手本を書いて、写させませす。

マスの横に書いていくのを見せて、写させませす。

マスの外に書いて、それを手本にして写させませす。

一マスに書けないときは、四マスを使って写させませす。

？ 適切な評価をしたか？

できないことばかり指摘しても、子どもはやる気をなくしていきます。

できていることを評価し、定着をはかりませす。

できていないことについては「～すればできるよ。」と教え、取り組ませませす。

？ 見通しを持たせたか？

何をどれだけすれば、おわりなのか？学習の前に示すようにしてませす。

「はじめに 発音の練習をませす。つぎに本読みをませす。そして算数をませす。」

終わるときは

「はじめに発音の練習をませました。うまくかぜの音が出るようになったね。そこにウをつける練習をしてきてね。」

「つぎに本読みをませました。読むときもゆっくり読めるようになったね。本をもっていないなくても、何が書いてあったかわかるよ。」

「おわりに算数をませました。計算がはやくなったね。」など もう一度、評価しながら、はじめとおわりを意識させませす。

これは自分が今までにしてきた失敗の中から出てきた視点です。

親御さんに家庭学習を勧めるとき助言にもなります。

3、発音の誤りへの指導 - 2

サ行の発音練習

？ ストローを使って

図はここにありませす。

<http://www3.kcn.ne.jp/~ntakashi/hp/hatuonn/sagyouohatuonnrennsyuu.htm>

下唇にストローを立て、そのストローに「すー」と呼気を通ませす。

これが s 行音の子音の音です。

s 行音の子音は、前舌と歯裏のすき間を呼気が摩擦するときの音です。

摩擦した呼気は前方に出ず、下方に出て行きます。

その呼気がストロウをとおりませす。

この音を「かぜの音」と名づけて、そこに母音の「ウ」をつけます。

はじめは、「かぜの音」と「ウ」の間に間があっていいです。

少しずつ、この間をとり、一息で「かぜの音」に「ウ」をつなげていくように練習ませす。

留意すること

乳歯が抜けていないか？
上下の歯のかみ合わせ 咬合 はどうか？

漂泊鳥から
今年一年はみなさんにとっていかがでしたか？
来年もいい年でありますように・・・。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

ことばだより
2002 . 12.25

INDEX

ことばだより創刊
ことば徒然 ことばは不便なものです。
発音の誤りへの指導 サ行の発音

1、ことば徒然 - 1 ことばは不便なものです。

カードですむことが増えてきました。
支払いや銀行のお金の引き出しはあたりまえのことです。
図書館の出入りから、在学証明までカードですむと聞きました
病院に行けば、カードで受け付けてもらえます。
最近になってやっとクレジットカードを使い始めました。
ただ、キャッシュカードも持っていますが、まだ使ったことはありません。
便利すぎて、いつでも引き出してしまいそうです。
第一、自分は暗証番号を覚えられません。
誕生日だったのか？電話番号だったのか？
やっぱり、用紙に書き込み、窓口で、「これお願いします。」と声をかけて、現金を手
渡しされるほうが安心です。
カードは便利に思いますが、声をかける不便もいいと思います。
「これお願いします」と声をかけるのも、いいと思います。

もともと、ことばそのものが不便なものです。

発音の誤りへの指導 - 1

サ行の発音 1

[s]行音は 無声 歯茎 摩擦音です。

<http://www3.kcn.ne.jp/~ntakashi/hp/qa/qha8.htm>

- ・上下の歯を軽く閉じる。
- ・軟口蓋を上げる。
- ・舌先を上歯裏に軽くあてる。
- ・呼気を舌と歯で摩擦させる。

単音の発音練習

?舌を出し、上歯と下歯で軽くかみ、「すー」と息を出す。舌に息を吹き付けるように

?舌先を下の前歯の裏につけ、マッチ棒を2本のせ、しずかに上歯と下歯とではさみ「すー」と息を出す。

?「ざ」のささやき声から導く。